

Panasonic

インテリジェント AVステーション 取扱説明書

品番 WL-AV200A
WL-AV190

この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。



保証書別添付

上手に使って上手に節電

このたびは、インテリジェントAVステーションをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

商品概要

本機は映像や音声放送をコントロールするための放送制御機器です。学校や教育センター、研修所などをご利用いただけるよう、本機1台で放送、編集、録画をコントロールできます。

- タッチ式液晶操作モニターに表示されるボタンを押すだけで操作できます。
- アイコン表示により、ボタンを直感的に操作できます。
- 映像や音声を最大3系統まで同時に放送できます。
- VTRやテープレコーダー、CDプレーヤーなどを接続できます。使用目的にあったシステムを構築できます。
- WL-AV200Aには、特殊効果可能なデジタル映像ミキサーを内蔵しています。映像に文字を重ねる、ワイプをかけるなどの編集を行うことができます。また、録画用のVTRを接続すれば、編集した内容はVTRに録画することもできます。

付属品をお確かめください

音量表示ラベル.....	(6枚入 3シート)
取扱説明書(本書).....	1
保証書.....	1
カギ.....	2

もくじ

商品概要.....	2	ラジオチューナー (WU-T60).....	14
付属品をお確かめください.....	2	こんなことができます.....	15
安全上のご注意.....	4	やさしい使いかた.....	17
使用上のご注意.....	6	音声パターン、映像パターンの使用上の注意.....	29
機能の説明.....	8	画面操作のしかた.....	30
概要.....	8	画面の出しかた.....	30
機能の説明.....	8	選択のしかた.....	30
システム構成.....	9	音声放送のしかた.....	31
システム図.....	9	音声放送のしかた.....	31
基本構成.....	10	モニターのしかた.....	33
組み込める機器 (別売品).....	10	録音のしかた.....	34
接続できる放送 (録画・録音)用機器.....	10	音声ミキサー操作のしかた.....	35
各部のなまえと働き.....	11	映像放送のしかた.....	36
操作部.....	11	映像放送のしかた.....	36
予備入力パネル.....	13	映像モニターのしかた.....	37

録画のしかた.....	40	インターカム.....	65
通常録画のしかた.....	40	カメラタリー.....	65
ダビングのしかた.....	41	仕様.....	66
アフレコのしかた.....	43	操作パターン登録内容記述シート.....	68
映像ミキサー（機能の説明）.....	44	拡張パターン登録内容記述シート.....	70
映像ミキサー（操作のしかた）.....	45	付録	
映像ミキサー画面のオープン.....	45	ワイプの動作イメージ.....	73
映像ミキサー画面のクローズ.....	45	アフターサービスについて.....	76
入力映像の切り換え.....	45		
スーパーインポーズのしかた.....	45		
映像をフリーズさせる.....	46		
デジタル効果の設定.....	47		
ミックス/ワイプ.....	48		
フェードの設定.....	52		
背景の設定.....	52		
ボリューム類の操作.....	53		
ミキサー出力を録画する.....	53		
ミキサー機能をリセットする.....	53		
入力設定・変更.....	54		
ラジオ・予備入力・レピーターなどを 放送、録音するとき （音声ミキサーA、B、Cの入力の設定）.....	54		
音声ミキサーの設定.....	55		
VTR2入力コネクタの切り換え.....	55		
音声・映像パターン操作の内容変更.....	56		
音声・映像パターン操作.....	56		
内容変更・登録のしかた.....	56		
新規設定登録のしかた.....	58		
入力設定内容について.....	58		
前と同じ状態で使いたい （ラストワンメモリーのしかた）.....	59		
記憶（登録）するとき.....	59		
記憶を呼び出すとき.....	59		
リモコン放送のしかた.....	60		
マルチリモコンマイク （WR-300）から放送するとき.....	60		
AVリモコン放送 （音声・映像同時に放送する）.....	62		
リモコンマイク （WR-105、110）から放送するとき.....	63		
チャイム放送.....	63		
放送の優先順位.....	64		
スタジオとの連絡.....	65		
スタジオ連絡スイッチを使う.....	65		

本書の記載方法

-  表示について
WL - AV200A固有の説明です。WL - AV200Aをお使いの場合にだけお読みください。
- タッチ式液晶表示モニターに表示される操作画面について
操作画面はWL - AV200Aの画面です。
WL - AV190をお使いの場合、操作画面が異なる場合があります。
- WL - AV200AとWL - AV190の機能の相違
 - WL - AV190には、映像ミキサー機能はありません。
 - WL-AV190には、ミックス/ワイプつまみ、ジョイスティックはありません。
 - WL-AV190の操作画面に映像ミキサーボタンは表示されません。

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使い方をしたとき生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

異物を入れない



水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因となります。

禁止

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因となります。

分解禁止

- 修理や点検は、販売店にご連絡ください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがあるなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

不安定な場所に置かない



落下などでけがの原因となります。

禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



感電の原因となります。

ぬれ手禁止

電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない (傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない)



傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因となります。

禁止

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

ケーブルを傷つけない



重いものをのせたり、はさんだりするとケーブルが傷つき、火災や感電の原因となります。

禁止

配線は正しく行う



ショートや誤配線により火災の原因となります。

⚠注意

落とさない、強い衝撃を与えない



けがや火災の原因となります。

禁止

湿気やほこりの多い場所に設置しない



火災や感電の原因となります。

禁止

指定以外の装置を接続しない



火災や感電の原因となります。

禁止

周囲に物を置かない



非常時の操作の妨げになり、火災、災害の拡大の原因となります。

禁止

- 指定範囲は常に整理、整頓してください。

定期的に点検をする



非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。

- 点検は、販売店や保守契約業者に依頼してください。

踏み台にしない、腰をかける



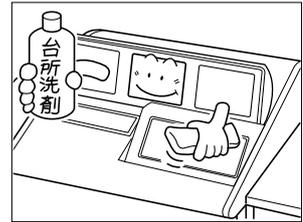
けがの原因となります。

禁止

使用上のご注意

● お手入れは

主電源を切って乾いた布で拭いてください。ほこりがとれにくい時は、台所用洗剤を布に侵み込ませて軽く拭いてください。



● 長時間使用されないときは

主電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。

ただし、非常用放送設備の一部としてご使用になる場合は、電源プラグを抜いたり、ブレーカーのスイッチを「切」にしないようお願いいたします。

● 予備入力パネル部の主電源スイッチは

リモコン放送が行えるようにするため常時、電源「入」の状態にしてください。

主電源スイッチを「切」にした後、再度主電源スイッチを「入」にすると、システムの立ち上げにしばらく時間がかかります。(1~2分程度)

タッチパネルは操作部にある電源スイッチで電源の入/切を行います。

● 消耗品の交換について

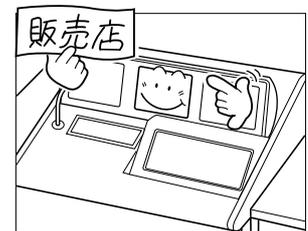
● 放熱ファンは約50,000時間を目安に交換してください。

● 液晶モニターのパックライトは消耗品です。約10,000時間を目安に交換してください。

● 内蔵バックアップ電池の交換目安は約5年です。寿命を過ぎると、主電源スイッチを「入」にしたときにエラーとなることがあります(エラーとなっても本機に記録されているパターンデータなどの記憶内容には影響ありません)。消耗品の交換は保証期間内でも有料となります。

これらの寿命時間はあくまでも交換の目安であり、部品を保証するものではありません。

部品の交換は販売店にご依頼ください。



● 接続する機器について

本機に接続して使用している機器は、日常点検を行うことをおすすめします。

詳しくは各機器の取扱説明書をお読みください。

● 放熱ファンについて

放熱ファンが故障するとファンアラームが鳴ります。すぐに主電源スイッチを「切」にしてください。

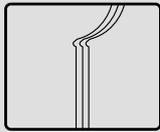
なお、放熱ファンの交換は販売店にご相談ください。

● モニターについて

本機のモニターはTFT液晶ディスプレイです。TFT液晶ディスプレイは、高度な技術を駆使して開発されており、鮮明度・画質等に優れておりますが、画面の一部にドットかけや常時点灯するドットが存在する場合があります。あらかじめご了承ください。

映像ミキサーの使用上のご注意

1. 入力映像信号がNTSC標準に合っていないときは、同期乱れが発生することがあります。
2. 入力映像にノイズが多いときは、出力画質も悪化します。
3. 入力映像にジッターが多いときは、色、出力映像の同期乱れが発生することがあります。
4. トラッキングノイズは同期乱れを起こすので、VTRのトラッキング調整を必ず行ってください。
5. VTRのスキューエラー、ビデオ受像機のAFC時定数などの影響で、機器により、画面上部に曲りが生じることがあります。



6. 丸ワイブの縁がギザギザに見えますが、故障ではありません。



7. ネガポジを行なうと画面が左右に少しずれますが、故障ではありません。
8. ネガポジの状態でスペシャルワイブの  等でワイブを行なうと、直線が少し曲がって見える場合がありますが故障ではありません。

タッチパネルの使用上のご注意

1. 指または先端R0.8ポリアセタール（相当品）を使用してください。
2. シャープペンシルやボールペンなど、先端の硬い材質の物では絶対に操作しないでください。故障の原因となります。

VTRの使用上のご注意

1. 入力映像信号がNTSC標準に合っていないときは、同期乱れが発生することがあります。
2. 入力映像にノイズが多いときは、出力画質も悪化します。
3. 入力映像にジッターが多いときは、色、出力映像の同期乱れが発生することがあります。
4. トラッキングノイズは同期乱れを起こすので、VTRのトラッキング調整を必ず行ってください。
5. VTRのスキューエラー、ビデオ受像機のAFC時定数などの影響で、機器により、画面上部に曲りが生じることがあります。
6. TVチューナー付きのVTRをアンテナを接続せずに使用するとき、チャンネルを外部入力に固定して使用してください。（外部入力端子には何も接続しなくても結構です。）外部入力以外のチャンネルが選ばれていると、映像が乱れる場合があります。

機能の説明

概要

- 学校、教育センター、研修所などの放送設備で音声1系統（3系統）、映像3系統の放送及び、録音、録画、ダビング、モニター（状態監視）などの機能を備えています。
- 音声、映像各37個（標準7個、拡張30個）のパターンスイッチに、予め操作内容を登録しておき、通常操作はこのスイッチを押して登録されたパターンの放送や録音、録画を行なえ、複雑な操作を省くことができます。
- マルチリモコン、リモコンマイクによりリモコン放送が可能です。
- 操作画面を表示し、画面上で操作、状態監視ができます。
- 電源切時の映像操作パターンを記憶し、次に使用するときには同じ状態で使用できるラストワンメモリー機能があります。
- Y-C分離（S-VHS準拠）方式の映像制作、録画ができます。
- 豊富な入出力端子を装備し、テープレコーダーにステレオ録音できます。
- VTR - VTR、VTR - カメラ間のデジタル効果、ワイプ、ミックスなど特殊効果のできるデジタル映像ミキサーを装備しています。

機能の説明

音声放送・録音

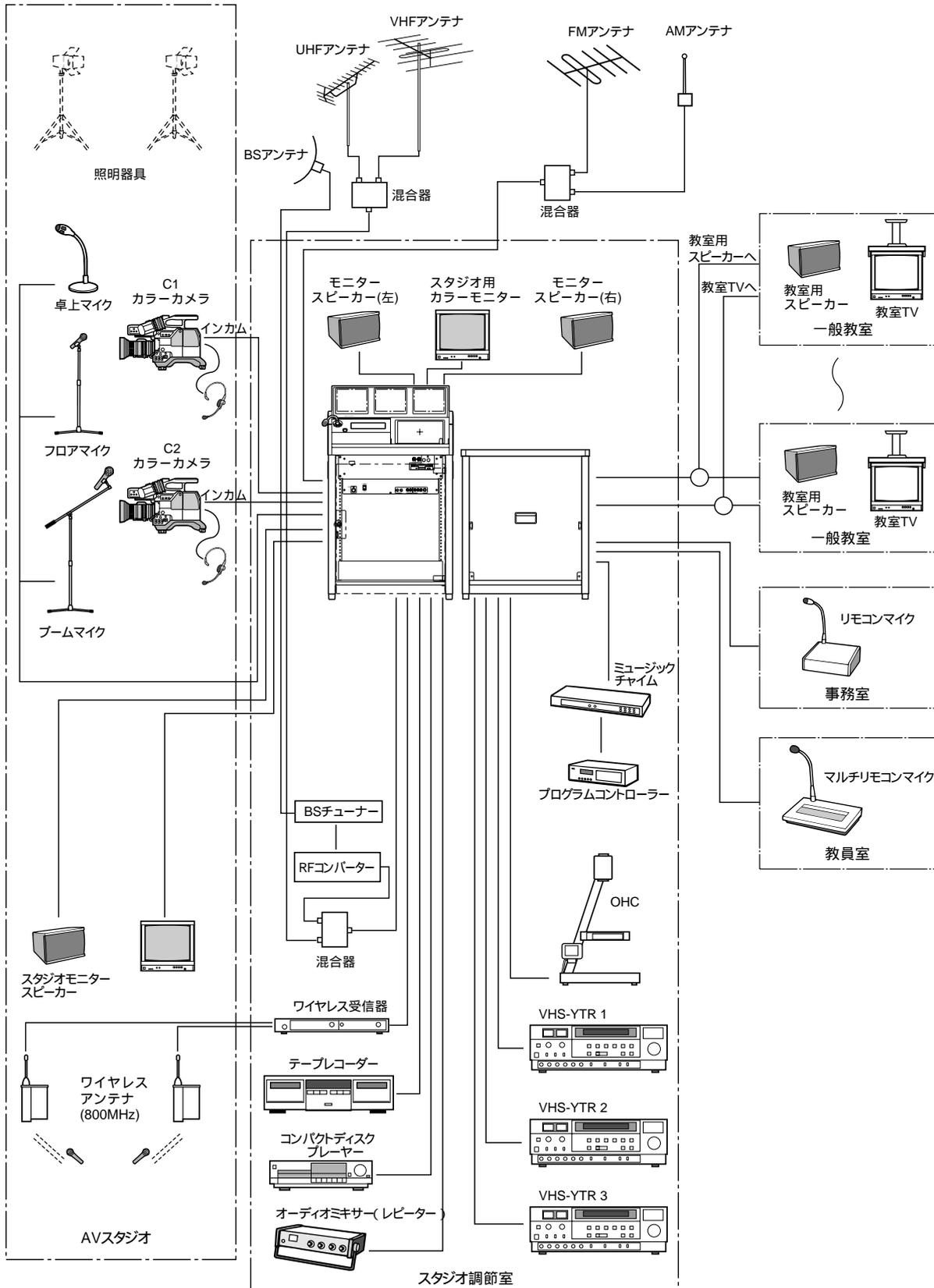
1. アナウンスマイク、マイク（3本まで）、CD、テープ、ワイヤレスマイク、ラジオ放送など豊富な入力ソースを、個別に、またはミキシングして各室のスピーカーに個別、ブロック別、または一斉に放送します。（スピーカー制御回路は最大70まで）放送系統は1系統または3系統を設置時に選択できます。
2. 上記ソースは個別またはミキシングして、テープレコーダーに録音できます。
3. 音声レベルはピークホールド型レベルメーター、モニタースピーカーでモニターできます。
4. マルチリモコンやリモコンマイクを用いて、多地点（最大8ヶ所）からリモコン放送できます。
5. ワンタッチでアナウンスマイクから全スピーカーに一斉放送できます。
6. タイマー、チャイムと組み合わせ、報時チャイム放送を行なえます。
7. 音声ミキサーからVTRへアフレコを行なえます。

映像放送・録音

1. VTR（3台まで）、カメラ（OHCを含む5台の中から切り換え）、LDなどの映像ソースを、各室のビデオ受像機に3系統別々に放送できます。
2. 上記映像ソース（VTR3を除く）を、VTR（1、3）に録画できます。（VTR3のみY-C可能）また、2台のVTR間のダビング、音声ミキサーを使ったアフレコができます。
3. 映像ミキサー部では、フリーズ・モザイク・ペイント・ストロボなどのデジタル効果や、ワイプ・ミックス・スーパーインポーズ・フェードイン/アウトなどの特殊効果を行なえ、多彩な自主番組制作が可能です。
4. 映像ソース、放送状態は3台の内蔵カラー液晶モニターでモニターできます。

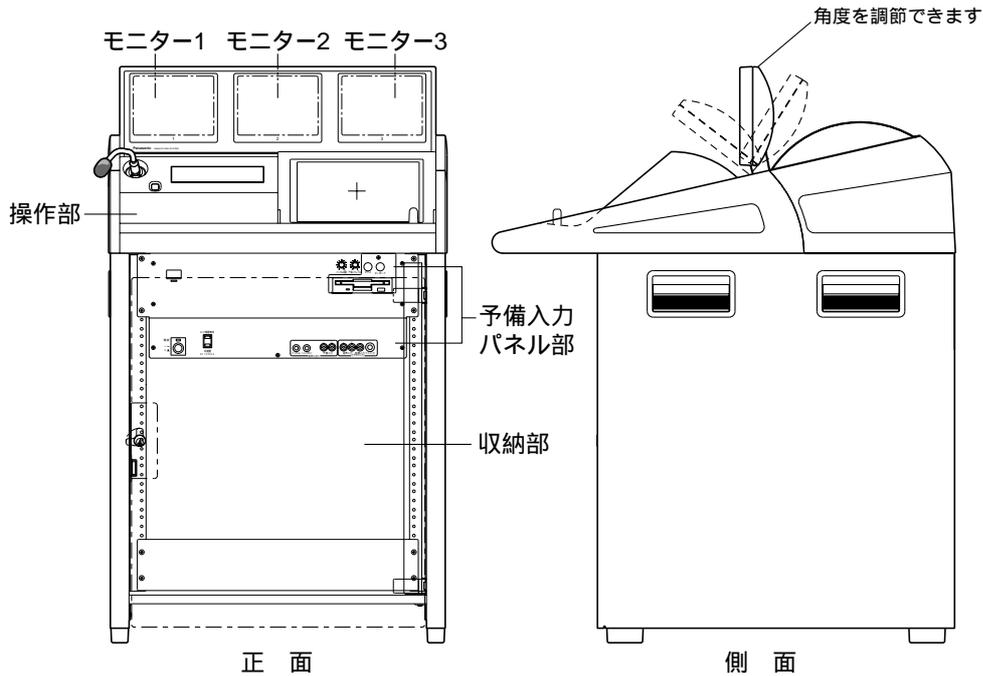
システム構成

システム図



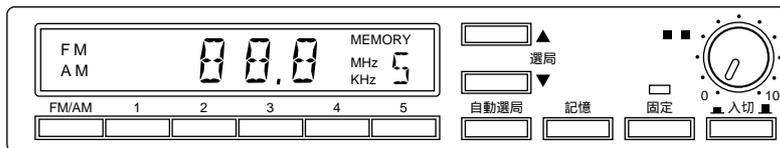
システム構成

基本構成



組み込める機器（別売品）

ラジオチューナーユニット（WU-T60）..... 1



ラジオチューナーの操作のしかたについてはラジオチューナーの取扱説明書をお読みください。

接続できる放送（録画・録音）用機器

（工事や設置に要する機器については工事説明書をお読みください。）

音声用機器

CDプレーヤー	1
カセットデッキ	1
マイクロホン	3
ワイヤレス受信機	1
モニタースピーカー（L/R：ステレオ）	2
スタジオモニタースピーカー	1
ミュージックチャイム	1
リモコンマイク	1
マルチリモコンマイク	8台まで

映像用機器

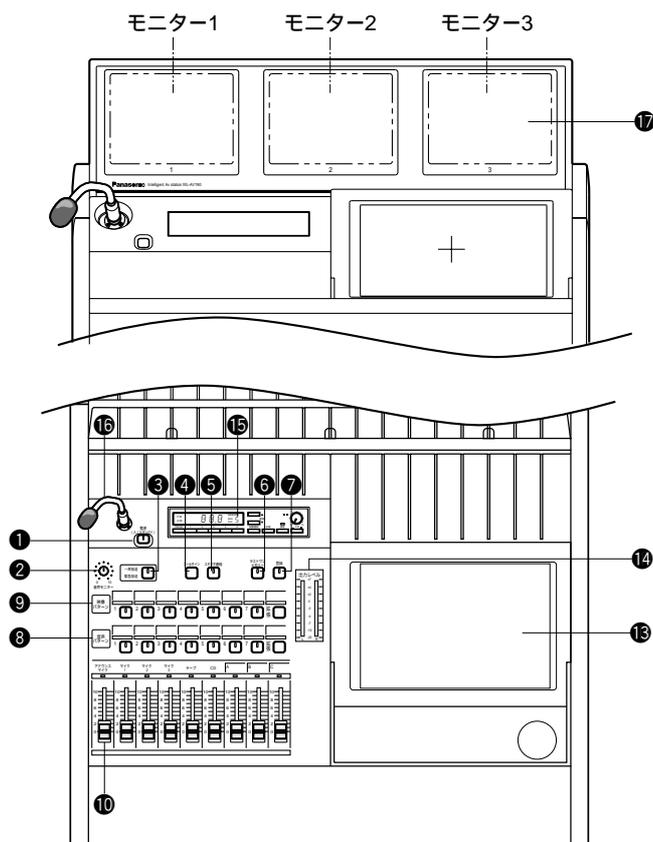
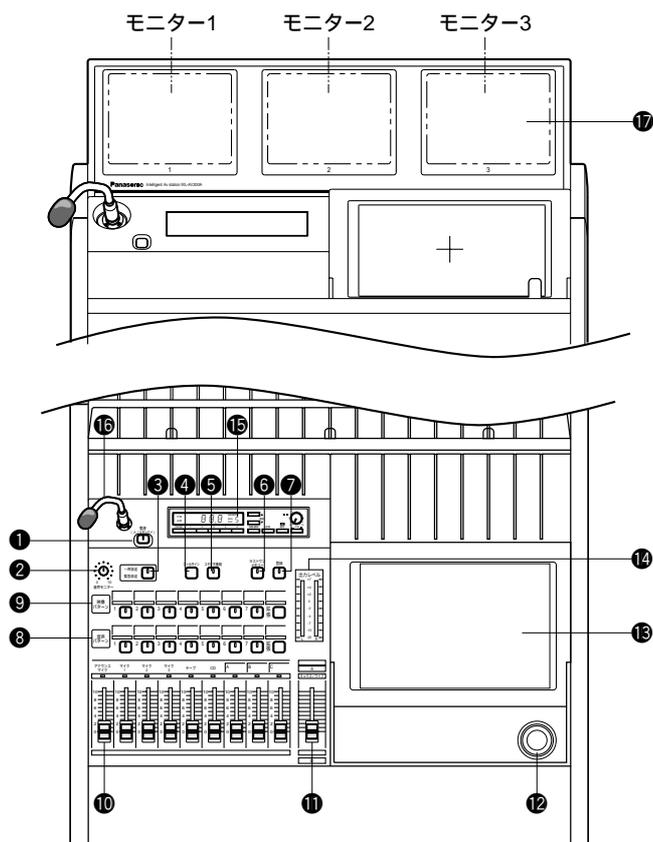
VTR	3台まで
マルチレーザープレーヤー	1
カラービデオカメラ（WV-F70STDなど）	4台まで
オーバーヘッドカメラ（WE-MV180A）	1
教室テレビ	
マスターモニターテレビ	1
スタジオモニターテレビ	1
プレビューモニターテレビ （クロマキー使用時、45ページをお読みください）	1

各部のなまえと働き

操作部

WL-AV200A

WL-AV190



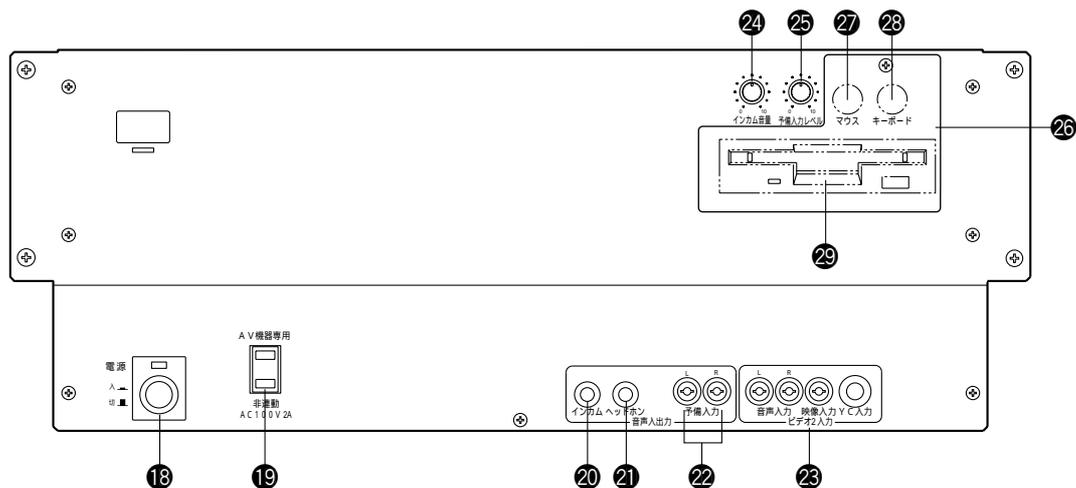
- ① 電源スイッチ [電源 (入 / スタンバイ)]
このスイッチを切っても、予備入力パネルの主電源スイッチ (13 ページの ⑬) が入りのときは、本機は通電しており、スタンバイ状態にあります。
- ② モニター音量つまみ (音声モニター)
モニタースピーカーの音量を調節します。
- ③ 緊急スイッチ [一斉放送 / 緊急放送]
このスイッチを押し、アナウンスマイクに向かって話すと、全校一斉に放送されます。コールサインスイッチを押すと、コールサインも放送されます。(ただし、スタジオスピーカーには放送されません)

- ④ コールサインスイッチ [コールサイン]
アナウンスの前後などに押すと、コールサインが放送されます。
- ⑤ スタジオ連絡スイッチ [スタジオ連絡]
- ⑥ ラストワンメモリースイッチ [ラストワンメモリー]
映像操作の最後の状態を記憶しておき、電源を切って、次に再び使用するとき、同じ状態で使用できます。

各部のなまえと働き

- ⑦ 登録スイッチ [登録]
パターンスイッチ、ラストワンメモリーへ登録するときに使用します。
- ⑧ 音声パターンスイッチ1~7、拡張 (30パターン) [音声パターン]
予め放送や録音のパターンを定めておき、このスイッチに登録しておきます (15ページ、58ページをお読みください)。電源スイッチを入れ、このスイッチを押すと、登録されたパターンの放送や録音を行なえます。拡張スイッチを押すと最大30パターンまで登録できます。
- ⑨ 映像パターンスイッチ1~7、拡張 (30パターン) [映像パターン]
⑧と同様、映像放送や、制作、録画のパターンに登録しておきます (16ページ、58ページをお読みください)。
- ⑩ 音声ミキサー (音量つまみ) [アナウンスマイク、マイク1・2・3、テープ、CD、A、B、C]
アナウンスマイク、マイク、テープ、CD、A、B、Cの音量を調節します。(音声ミキサー使用時) A、B、Cは、次のように入力設定できます。(54ページをお読みください。)
A : VTR1、音声予備1、音声予備3の中から1つ選択。
B : VTR2、ワイヤレス、音声予備2の中から1つ選択。
C : VTR3、レピーター、ラジオの中から1つ選択。
- ⑪ ミックス/ワイプつまみ
ワイプモードでこのつまみをAからBに移動すると、ワイプ境界が移動し、B側の入力映像が増加します。ミックスモードでは、A側とB側の映像が混合されながら切り換わります。
- ⑫ ジョイスティック
特定のワイプパターン( など)のとき割り込んだ映像の位置を移動する場合などに使用します。
- ⑬ 操作モニター
タッチパネル方式で、画面に指で触れて簡単に操作できます。
- ⑭ 出力レベルメーター [出力レベル]
音声ミキサーの音量を示します。最大で0dBを超えないくらいに音量を調整します。
- ⑮ ラジオチューナー (別売品)
- ⑯ アナウンスマイク
- ⑰ 映像モニター1~3 (左より)
モニターは次のように映像入力、映像放送状態を見ることができます。
モニター1 : ①映像、VTR1、カメラ1~3、映像予備1・3
モニター2 : ②映像、VTR2、カメラ2・4、映像予備2・4
モニター3 : ③映像、レーザーディスク (LD)、VTR1~3、カメラ1~4、OHC
映像予備3・4、映像ミキサー
また、モニター部は角度調整することができます。映像の見やすい角度に調整してお使いください、
映像1系統で放送中の映像をモニターします。

予備入力パネル



- ⑱ 主電源スイッチ [電源入/切]
電源を「入」または「切」します。
• 再度電源を入れる場合は約5秒経過してからスイッチを押してください。
• 電源スイッチを「切」にしても、電源からは遮断されません。電源を遮断する場合、ACコンセントから本機の電源プラグを抜いてください。

- ⑲ AV機器専用コンセント [AV機器専用]
AC100V 2Aまでの機器を接続できます。(非連動)

- ⑳ ヘッドホンジャック [ヘッドホン]
音声モニター用のヘッドホン出力です(複式ジャック)。ヘッドホンを接続するとモニタースピーカーからの音声は出力されません。

- ㉑ インターカムジャック [インカム]
(複式ジャック)
インターカムヘッドセットを接続し、各カメラと通話します。音量調整は㉔のツマミで行なって下さい。

- ㉒ 予備入力 [予備入力L/R]
(ピンジャック)
音声予備入力1: テープ、ワイヤレス、DVD、MDなどの予備入力端子です。入力レベルの調整は㉕のツマミで行なってください。

- ㉓ ビデオ-2入力コネクタ [映像入力、音声入力L/R、YC入力]

VTR2は、後面にも入力コネクタがあり、操作画面で前面/後面を選択します。「前面」を選択したときは、本コネクタに接続します。
S-VHSのVTRを接続する場合は、Sビデオ出力端子をYC入力端子に接続します。

- ㉔ インターカム音量つまみ [インカム音量]
㉕ 予備入力レベル調整つまみ [予備入力レベル]

- ㉖ FDDフタ
データのバックアップやカスタマイズ作業を行うとき、このフタをはずします。

- ㉗ マウスコネクタ [マウス]
カスタマイズ作業を行うときマウスを接続します。FDDフタ㉖を外して作業してください。

- ㉘ キーボードコネクタ [キーボード]
カスタマイズ作業を行うときキーボードを接続します。FDDフタ㉖を外して作業してください。

- ㉙ フロッピーディスクドライブ (FDD)
データのバックアップに使用します。FDDフタ㉖を外して作業してください。

キーボード、マウスについて

キーボードやマウスはDOS/パーソナルコンピューター用のものをお使いください。
(キーボード: ミニDINコネクタタイプ、マウス: PS/2タイプ)

こんなことができます（音声パターン操作）



1	個別連絡 放送 1	アナウンスマイクの音を局番号1-4のスピーカーへ放送する（1系統） アナウンスマイクの音を1系統全局番のスピーカーへ放送する（3系統）	18 ページ
2	個別連絡 放送 2	アナウンスマイクの音を局番号5-7のスピーカーへ放送する（1系統） アナウンスマイクの音を2系統全局番のスピーカーへ放送する（3系統）	19 ページ
3	個別連絡 放送 3	アナウンスマイクの音を局番号8-10のスピーカーへ放送する（1系統） アナウンスマイクの音を3系統全局番のスピーカーへ放送する（3系統）	20 ページ
4	お昼の放送	音声ミキサーでアナウンスマイク、CD（コンパクトディスク） テープの音を全校にミキシング放送する	21 ページ
5	アフレコ	音声ミキサーでVTR3のビデオテープに音声をアフレコする （VTR3にアフレコ機器が無いとできません） 映像パターン操作5と組み合わせて使用する	22 ページ
6	テレビ朝会	カメラ1と4の映像と、音声ミキサーの音を教室テレビと全校のス ピーカーへ放送する（WL-AV190は、カメラ1固定） （スピーカーへの放送は、手動で放送ONします。） 映像パターン操作6と組み合わせて使用する	23 ページ
7	編集録音	音声ミキサーでミキシングした音を録音する	25 ページ

29ページの「音声パターン・映像パターンの使用上の注意」も必ず読んでください。

こんなことができます（映像パターン操作）



1	ビデオ放送	VTR1、2、3の音声と映像を映像系統1、2、3に放送する	26 ページ
2	制作	<ul style="list-style-type: none"> ・WL - AV200Aをご使用の場合 映像ミキサーの映像と、音声ミキサーの音をVTR3に録画する ・WL - AV190をご使用の場合 カメラ1の映像と音声ミキサーの音をVTR3に録画する 	27 ページ
3	ダビング (Y-C)	VTR1からVTR3へ映像と音声のダビングをする (Y-C : S - ビデオの場合)	28 ページ
4	ダビング	VTR1からVTR3へ映像と音声のダビングをする	28 ページ
5	アフレコ	音声ミキサーでVTR3のビデオテープに音声をアフレコする (VTR3にアフレコ機能が無いとできません) 音声パターン操作5と組み合わせて使用する	22 ページ
6	テレビ朝会	<ul style="list-style-type: none"> ・WL - AV200Aをご使用の場合 カメラ1と4の映像と、音声ミキサーの音を教室テレビと全校のスピーカーに放送する カメラ1と4の映像は、ワイプつまみで切り換える (スピーカーに放送する場合、手動で放送をONにする) ・WL - AV190をご使用の場合 カメラ1の映像と、音声ミキサーの音を教室テレビと全校のスピーカーに放送する (スピーカーに放送する場合、手動で放送をONにする) 音声パターン操作6と組み合わせて使用する 	23 ページ
7	未設定		

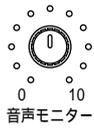
29ページの「音声パターン・映像パターンの使用上の注意」も必ず読んでください。

やさしい使いかた(緊急放送/一斉放送のしかた)

緊急放送/一斉放送スイッチを押す

電源が入り、画面がでる

1



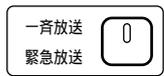
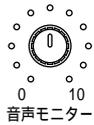
コールサイン



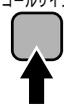
(アナウンスマイクを全校へ放送する事を示しています)

コールサインスイッチを押す

2



コールサイン



全校にコールサインが鳴る

アナウンスマイクで放送する

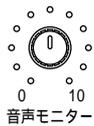
3



全校に放送される

放送が終わったら、再び緊急放送/
一斉放送スイッチを押す

4



コールサイン



電源が切れる

メモ

- 音声モニターは1系統の状態をモニターします。
- アナウンスマイク使用時は、ハウリング(ピーという発振音)防止のため、モニタースピーカー音は小さくなります。
- 緊急放送/一斉放送スイッチを押して電源を入れる(または切る)と、数秒間は電源を切る(または入れる)ことができません。

やさしい使いかた(音声パターン操作)

1	個別連絡 放送 1	アナウンスマイクの音を局番号1-4のスピーカーに放送する(1系統) アナウンスマイクの音を1系統全局番のスピーカーに放送する(3系統)
----------	----------------------	--

1 電源スイッチを押す



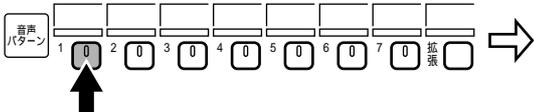
電源(ハスタンバイ)

音声・映像放送画面が表示される



1系統 3系統

2 音声パターンスイッチ①を押す



音声パターン

設定されている音声放送状態に画面が変更される



1系統 3系統

(アナウンスマイクを個別のスピーカーに放送する事を示しています)

3 コールサインスイッチを押す



コールサイン

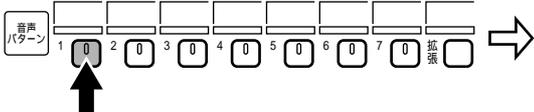
1~4のスピーカーにコールサインが放送される(1系統)
1系統の全スピーカーにコールサインが放送される(3系統)
(約4秒間)

4 アナウンスマイクで放送する



1~4のスピーカーに放送される(1系統)
1系統の全スピーカーに放送される(3系統)
(音量は固定です)

5 終わったら再び音声パターンスイッチ①を押す



音声パターン

音声放送の設定が解除され、パターンスイッチ①のLED消灯

6 電源スイッチを押す



電源(ハスタンバイ)

電源が切れる

WL - AV190をご使用の場合、映像放送画面に  は表示されません。

<h1>2</h1>	<h2>個別連絡放送 2</h2>	<p>アナウンスマイクの音を局番号5-7のスピーカーに放送する（1系統）</p> <p>アナウンスマイクの音を2系統全局番のスピーカーに放送する（3系統）</p>
------------	-------------------	---

1 電源スイッチを押す

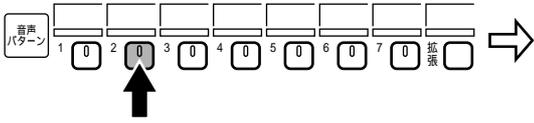


音声・映像放送画面が表示される



1系統
3系統

2 音声パターンスイッチ②を押す



設定されている音声放送状態に画面が変更される



1系統
3系統

(アナウンスマイクを個別のスピーカーに放送する事を示しています)

3 コールサインスイッチを押す



5~7のスピーカーにコールサインが放送される（1系統）

2系統の全スピーカーにコールサインが放送される（3系統）

（約4秒間）

4 アナウンスマイクで放送する

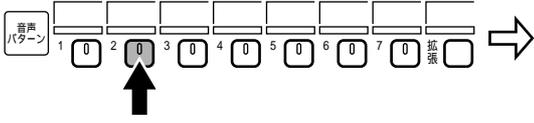


5~7のスピーカーに放送される（1系統）

2系統の全スピーカーに放送される（3系統）

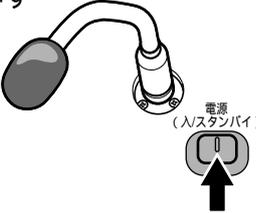
（音量は固定です）

5 終わったら再び音声パターンスイッチ②を押す



音声放送の設定が解除され、パターンスイッチ②のLED消灯

6 電源スイッチを押す



電源が切れる

WL - AV190をご使用の場合、映像放送画面に  は表示されません。

やさしい使いかた(音声パターン操作)

3	個別連絡 放送 3	アナウンスマイクの音を局番号8-10のスピーカーに放送する(1系統) アナウンスマイクの音を3系統全局番のスピーカーに放送する(3系統)
----------	----------------------	---

1 電源スイッチを押す

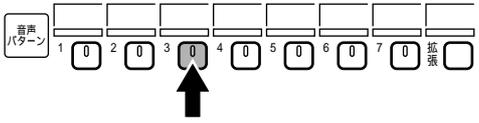


音声・映像放送画面が表示される



1系統
3系統

2 音声パターンスイッチ③を押す



設定されている音声放送状態に画面が変更される



1系統
3系統

(アナウンスマイクを個別のスピーカーに放送する事を示しています)

3 コールサインスイッチを押す



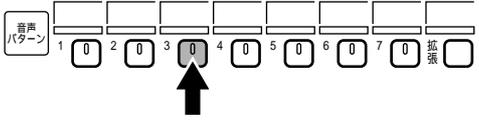
8~10のスピーカーにコールサインが放送される(1系統)
3系統の全スピーカーにコールサインが放送される(3系統)
(約4秒間)

4 アナウンスマイクで放送する



8~10のスピーカーに放送される(1系統)
3系統の全スピーカーに放送される(3系統)
(音量は固定です)

5 終わったら再び音声パターンスイッチ③を押す



音声放送の設定が解除され、パターンスイッチ③のLED消灯

6 電源スイッチを押す



電源が切れる

WL - AV190をご使用の場合、映像放送画面に  は表示されません。

<h1>4</h1>	<h2>お昼の放送</h2>	音声ミキサーでアナウンスマイク、CD（コンパクトディスク）、テープの音を全校にミキシング放送する
------------	----------------	--

1 電源スイッチを押す

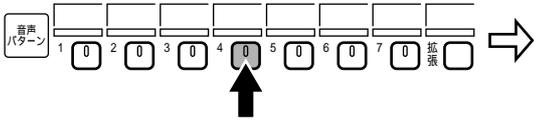


音声・映像放送画面が表示される



1系統 3系統

2 音声パターンスイッチ4を押す



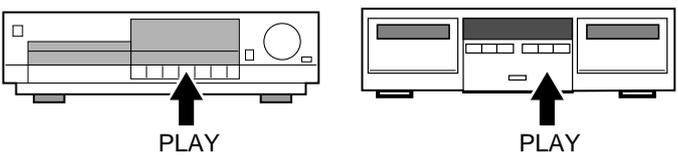
設定されている音声放送状態に画面が変更される



1系統 3系統

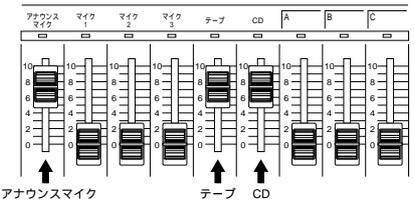
(音声ミキサーを全校に放送する事を示しています)

3 CDプレーヤー、テープレコーダーを動作させる



PLAY PLAY

4 音声ミキサーの音量つまみを上げる



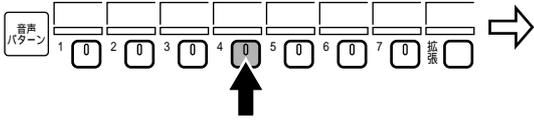
アナウンスマイク テープ CD

アナウンスマイクで放送する

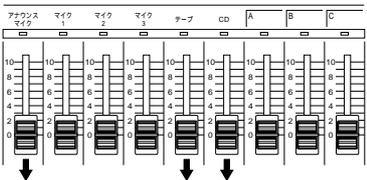


全校に放送される

5 終わったら再び音声パターンスイッチ4を押す

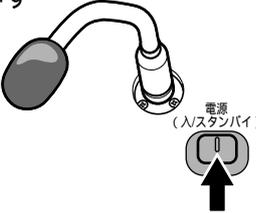


音量つまみを下げる



CDプレーヤー、テープレコーダーを止める

6 電源スイッチを押す



電源が切れる

WL - AV190をご使用の場合、映像放送画面に  は表示されません。

やさしい使いかた(音声・映像パターン操作)

<h1>5</h1>	<h2>アフレコ</h2>	音声ミキサーでVTR3のビデオテープに音声をアフレコする (VTR3にアフレコ機能がないとできません)
------------	---------------	--

1 電源スイッチを押す

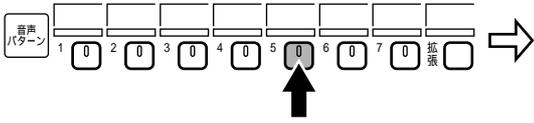


⇒ 音声・映像放送画面が表示される



1系統
3系統

2 音声パターンスイッチ[5]を押す



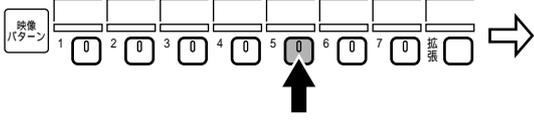
⇒ 設定されている音声放送状態に画面が変更される



1系統
3系統

(モニタースピーカーに音声ミキサーの音が出ることを示しています)

3 映像パターンスイッチ[5]を押す



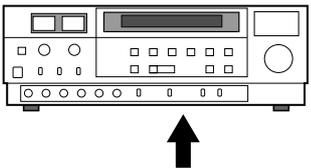
⇒ 録画の状態が映像放送画面側に表示される



1系統
3系統

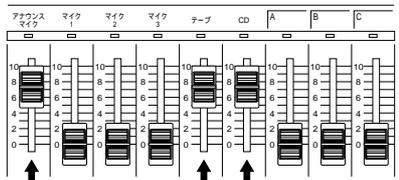
(アフレコ可能な状態を示しています)

4 VTR3をアフレコにする



⇒ マスターモニター、モニター3にVTR3の映像がでる

5 音声ミキサーの音量つまみを上げる

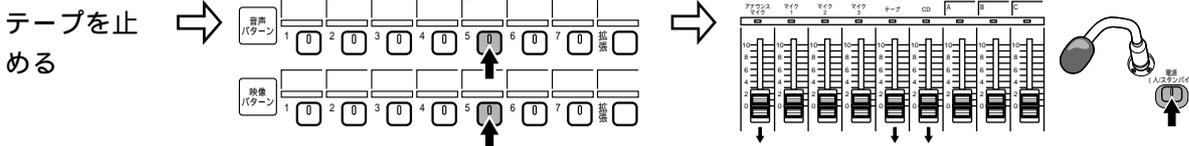


⇒ 映像に合わせて、アナウンスマイクや、テープ、CDで音を録音する

6 VTR3、CD、テープを止める

⇒ 終わったら再び映像パターンスイッチ[5]と音声パターンスイッチ[5]を押す

⇒ 音量つまみを下げ、電源スイッチを押す



WL - AV190をご使用の場合、映像放送画面に  は表示されません。

<h1>6</h1>	<h2>テレビ朝会</h2>	カメラ1と4の映像と、音声ミキサーの音を教室テレビと、全校のスピーカーに放送する（WL - AV190をご使用の場合、カメラ1の映像と音声ミキサーの音を教室テレビと全校スピーカーに放送する）
------------	----------------	---

1 電源スイッチを押す



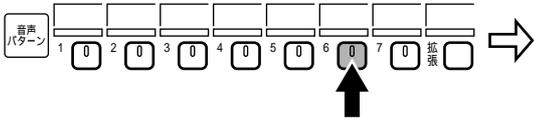
⇒

音声・映像放送画面が表示される¹



1系統 3系統

2 音声パターンスイッチ⑥を押す



⇒

設定されている音声放送状態に画面が変更される



1系統 3系統

（音声ミキサーが全校に放送する準備が完了しモニタースピーカーに音声ミキサーの音が出ることを示しています）

3 操作画面の「」を指で押す



1系統 3系統

⇒

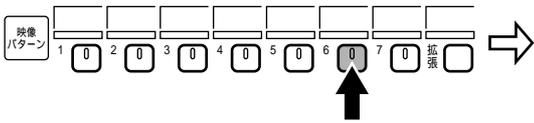
スピーカーが放送可能になる



1系統 3系統

（パターンスイッチ⑥のLED消える）

4 映像パターンスイッチ⑥を押す



⇒

映像放送の状態が映像放送画面側に表示される²



・映像ミキサー / カメラ1が映像1系統に放送されることを示しています
 ・モニター1でCH1、モニター3、マスターモニターで映像ミキサー / カメラ1をモニターできる

5 カメラ1、4で映像を映す³



⇒

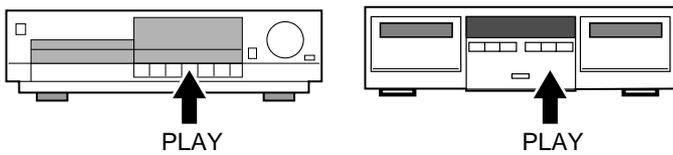
カメラの映像が1系統に放送される
 カメラ1、4の映像選択は、ワイプつまみを操作して行なう³

1 WL - AV190をご使用の場合、映像放送画面に  は表示されません。
 2 WL - AV190をご使用の場合、 の位置に  が表示されます。
 3 カメラ4はWL - AV200Aをご使用の場合にだけ使用できます。

やさしい使いかた(音声・映像パターン操作)

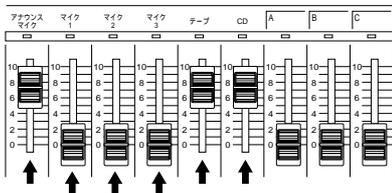
6

CDプレーヤー、テープレコーダーを動作させる



7

音声ミキサーの音量つまみを上げる



⇒ CDやテープの音が全校に放送される
マイク1~3のつまみを必要に応じて操作する

8

コールサインスイッチを押す



⇒ 全校にコールサインが放送される(約4秒間)

9

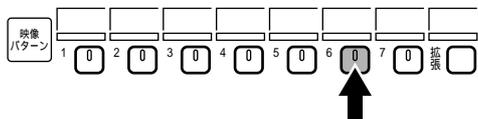
アナウンスマイクで放送する



⇒ 全校に放送される

10

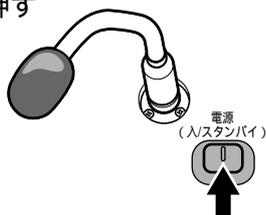
終わったら再び音声・映像パターンスイッチ⑥を押す



⇒ カメラ1、4やCDプレーヤーなどを止め、音声ミキサーのボリュームを下げる¹

11

電源スイッチを押す



⇒ 電源が切れる

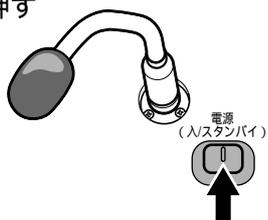
¹ カメラ4はWL - AV200Aをご使用の場合にだけ使用できます。

やさしい使いかた(映像パターン操作)

1	ビデオ放送	VTR1、2、3の音声と映像を映像系統1、2、3に放送する
----------	--------------	-------------------------------

電源スイッチを押す

1

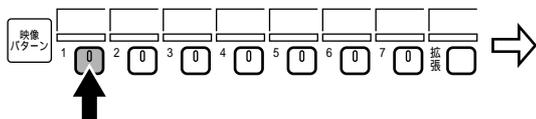


音声・映像放送画面が表示される



映像パターンスイッチ①を押す

2



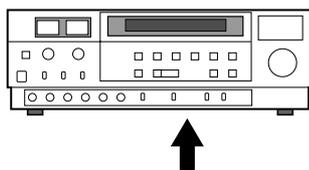
映像放送の状態が映像放送画面側に表示される



- ・VTR1が映像1系統に、VTR2が映像2系統に、VTR3が映像3系統に、放送されることを示しています
- ・モニター1でVTR1を、モニター2とマスターモニターでVTR2を、モニター3でVTR3を確認できます

VTR1、2、3を再生状態にする

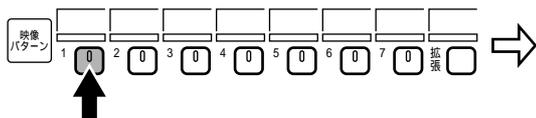
3



⇒ 教室のテレビにVTRの映像が放送される

終わったら再び映像パターンスイッチ①を押す

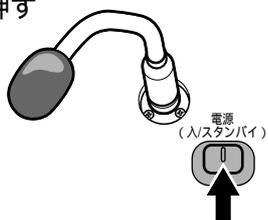
4



⇒ VTRを止める。映像放送の設定が解除され、パターンスイッチ①のLED消灯

電源スイッチを押す

5



⇒ 電源が切れる

WL - AV190をご使用の場合、映像放送画面に  は表示されません。

<h1>2</h1>	<h2>制作</h2>	映像ミキサーの映像と音声ミキサーの音声をVTR3に録画する (WL - AV190をご使用の場合、カメラ1の映像と音声ミキサーの音声をVTR3に録画する)
------------	-------------	--

1 電源スイッチを押す

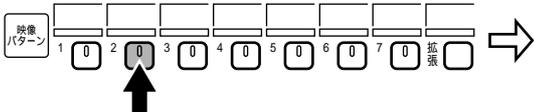


音声・映像放送画面が表示される¹



1系統 3系統

2 映像パターンスイッチ②を押す



映像放送の状態が映像放送画面側に表示される¹



モニター1でVTR1、モニター3でカメラ4、マスターモニターで映像ミキサーの映像を確認できます²

3 映像放送画面右下の「映像ミキサー」を押す

映像ミキサー画面となる



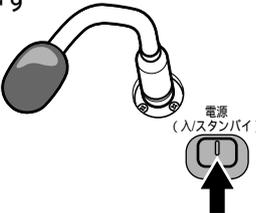
「A」入力選択はVTR1、「B」入力選択はカメラ4となっています。

4 VTR1を再生状態に、VTR3を録画状態にする

5 映像ミキサーで映像を、音声ミキサーで音声を操作し、VTR3に録画する
映像ミキサーの操作のしかたは、45ページ以降をお読みください。

6 終了したら、VTR1、3を停止し、映像パターンスイッチ②を押す(スイッチのLED消灯)

7 電源スイッチを押す



電源が切れる

1 WL - AV190をご使用の場合、映像放送画面(右下)には表示されません。
2 WL-AV190をご使用の場合、モニター3、マスターモニター、録画3はすべてカメラ1の映像となります。

やさしい使いかた(映像パターン操作)

3,4	ダビング	3. VTR1からVTR3へ映像と音声のダビングをする (Y-C : S-ビデオの場合) 4. VTR1からVTR3へ映像と音声のダビングをする (通常ダビング)
-----	------	--

1 電源スイッチを押す



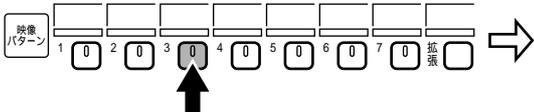
電源 (入スタンバイ)

⇒ 音声・映像放送画面が表示される¹



1系統 3系統

2 映像パターンスイッチ③または④を押す



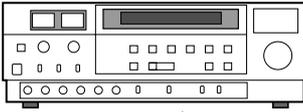
⇒ 録画の状態が映像放送画面側に表示される¹



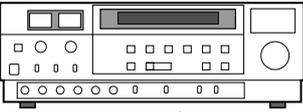
Y-C 通常

(VTR1をVTR3に録画する状態を示しています
モニター1でVTR1を、モニター3とマスターモニターで
VTR3の映像を確認できます²)

3 VTR1を再生し、VTR3を録画状態にする



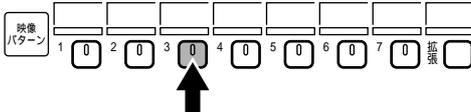
↑ PLAY



↑ REC

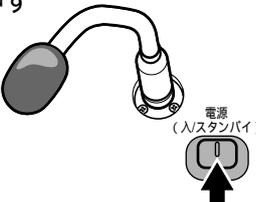
⇒ VTR1の映像がVTR3に録画される

4 終わったら再び映像パターンスイッチ③または④を押す



⇒ VTRを止める

5 電源スイッチを押す



電源 (入スタンバイ)

⇒ 電源が切れる

Y-Cダビング (映像パターンスイッチ③) はVTR1、3がS-VHSでないといけません。

ご注意

VTRで録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

1 WL - AV190をご使用の場合、映像放送画面に  は表示されません。

2 WL-AV190をご使用に場合、YC時の録画3には  が表示されます。

音声パターン、映像パターンの使用上の注意

何らかの放送や録音・録画が行われている状態で、音声パターン・映像パターン（後述の「拡張パターン」を含みます）を実行すると、そのとき行われていた動作内容は原則として無効となります。大切な放送や録音・録画が中断される恐れがありますので、音声パターンや映像パターンを実行する前に、何らかの作業が行われていないか必ず確認してください。

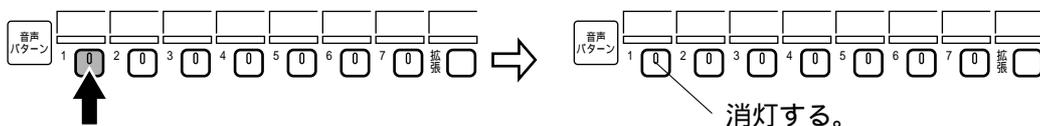
タッチパネル画面上に緑色やオレンジ色の項目がある場合は、何らかの作業が行われていると思われます。他の人に確認し、処理を終了して良い場合は操作部の電源スイッチをいったん切ってから入れ直してください。

なお、作業が終了したら、後に使う人のために必ず電源スイッチを切ってから席を離れてください。（電源スイッチが入っていないくても、主電源スイッチが入っていればリモコン放送可能です。）引き続き他のパターンを使用して、別の作業を行いたい場合は、以下の手順で操作してください。（パターン1からパターン2への変更の例で示します。）

音声パターンスイッチ①を押す

音声パターンスイッチ①の内容が取り消されます。

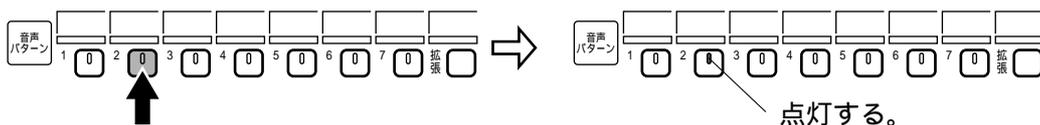
1



画面下段の「処理中です。しばらくお待ちください。」の表示が消えたら、音声パターンスイッチ②を押す

音声パターンスイッチ②の内容が設定されます。

2



次のような場合、パターン内容が正しく実行されない場合がありますので注意してください。

- ・上記1の処理が完了する前に2の操作を行う。
- ・上記2の操作を行わず、パターン実行中に別のパターンスイッチを押す。

必ず、1の操作後、「処理中です。しばらくお待ちください。」の表示が消えたのを確認してから、2の操作を行ってください。

1の処理中や1の処理が完了する前に2の操作を行った場合は、電源を入れ直した後、2の操作を行ってください。

参考

音声パターンを実行後、音声関係の操作を行った場合も、音声パターンスイッチは消灯します。

映像パターンを実行後、映像関係の操作を行った場合も、映像パターンスイッチは消灯します。

これらの場合、上記のように実行したパターンスイッチを再度押してもパターンスイッチの内容は取り消されませんので、電源スイッチを切り、再度入れ直してください。

ただし、次のような例外があります。

- ・音声3系統のシステムで音声パターンを実行後、その音声パターンで全く使用していない系統の設定を変更した場合

・映像パターンを実行後、映像ミキサーの「入力選択(A/B)」、「録画1」、「録画3」以外の設定を変更した場合
これらの操作のみが行われた場合は、パターンスイッチは点灯したままとなり、再度押すとその操作を含めて設定が取り消されます。

なお、操作により設定変更され、音声パターンスイッチが消灯した後で誤ってパターンスイッチを再度押してしまった場合、録音・録画が行われているとエラーパネルが表示される事があります。この場合、「確認」を押してパネルを閉じてください。引き続きパターンスイッチを使って作業を行う場合は、電源スイッチをいったん切

画面操作のしかた

画面の出しかた

- 本機はパネル面のスイッチや音量つまみと、操作モニターの画面で操作します。

1 操作部の電源スイッチを押す。



操作モニターに音声、映像放送画面がでます。

ご注意

電源を「入」または「切」にした後、数秒間は電源スイッチ、緊急放送ノ一斉放送スイッチ、パターンスイッチなどのスイッチは操作できません。

音声、映像放送画面



- ・音声放送1系統のときは「2、3系統」は表示されません。

2 操作したい項目を選択する。

音 声 放 送：放送または録音するとき。

音声ミキサーを使用するとき
(映像編集、アフレコの場合も。)

映 像 放 送：VTR、カメラ、映像ミキサーの映像を放送するとき。(モニター1、2、3、マスターモニターの選択もできます。)

録 画 1、3：録画するとき、アフレコ、ダビングをするとき。

入 力 設 定：54ページをお読みください。

映像ミキサー：操作モニターの画面で操作します。
(44ページ以降をお読みください。)

選択のしかた

1 操作画面の希望の項目を指で押す。



子画面があるときは、子画面が表示され、その中から更に必要な項目を指で押します。[とじる]を押すと、元の画面に戻ります。)

例：子画面(音声放送「なにを」)



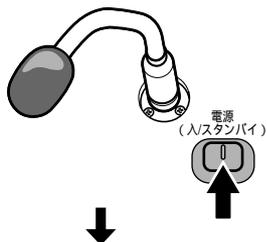
- ・直接選択する項目(例、「放送」など)は、選択されるとスイッチの色が緑やオレンジに変わります。
- ・具体的な操作は、以降の説明をお読みください。

音声放送のしかた

音声放送のしかた

- 「なにを」「どこへ」「放送」するのか決めます。

1 操作部の電源スイッチを押す。



操作モニターに音声、映像放送画面がでます。

音声（1系統）映像放送画面



音声（3系統）映像放送画面



「なにを」の選択

1 音声放送「なにを」を押す。



31 「なにを」選択画面が表示されます。

2 放送するものを指で押す。



放送するものが緑色に変わります。

- マイク：アナウンスマイクの音
- 音声ミキサー：音声ミキサーでミキシングした音
- テープ：テープレコーダーの再生音
- CD：CD（コンパクトディスク）プレイヤーの再生音
- クリア：選択を解除する場合

ご注意

マイク、CD、テープを選択した場合は、音量は固定となります。（音声ミキサー音量つまみで音量は調節できません。）

3 [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻り、「なにを」欄に選択したものが表示されます。



- 3系統の場合、各系統ごとに1～3を繰り返し、なにを放送するか選択します。

音声放送のしかた

「どこへ」の選択

- 1 音声放送「どこへ」の中から放送する場所を選んで指で押す。



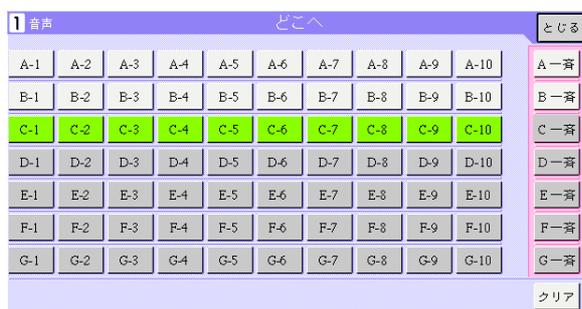
放送する場所が緑色に変わります。

- 全校：全校のスピーカーに放送する。
- 屋内：予め設定したスピーカーに放送する。
- えらぶ：個々にスピーカーシステムを切り切りする場合
- クリア：選択を解除する場合

3系統の場合、これを繰り返す。

- 2 [えらぶ] を選択した場合は、音声どこへ画面¹が表示され、その中から操作させるスピーカーシステム番号を指で押す。(番号が緑色に変わります。これを繰り返し、複数個選択可能)

音声どこへ画面
(3系統、リレーユニット6台接続の場合)²



「A～G一斉」は緊急リレーを示します。「A～G一斉」のどれかを選択すると、その系統に接続されているリレーユニットの[1]から[10]のスピーカー表示がすべてOFFになります。

また、その系統に接続されているすべてのリレーユニットの「一斉」がすべて緑色(ON)に変わります。この例では、「A一斉」を押した場合「A-1」～「B-10」がOFF、「A一斉」と「B一斉」がONになります。

教室用スピーカーにボリュームが付いている場合、「A～G一斉」を選んで放送したときは、スピーカーのボリュームが無効となります。

[1]～[10]を選んで放送したときは、ボリュームが有効になります。

- 1：レイアウト変更により自由配置されたデーターの場合、表示が異なります。
- 2：選択した放送系統以外のスイッチも表示(灰色)されますが、押すことはできません。

- 3 選択したら、[とじる]を指で押す。



音声、映像放送画面に戻り、「なにを」欄の[えらぶ]が緑色に変わります。



「放送」の選択

- 1 を押す。



↓
 ボタンがオレンジ色に変わります。(オレンジ色は放送ONを示しています。)

- 2 コールサインを鳴らすときは、 を押します。
 (緑色に変わり約4秒間コールサインが鳴ります。)

- 3 「なにを」で選択した機器を動作させる。
 ミキサーを選択したら、ミキサーの各音量つまみで音量を調節してください。

ミキサー音量は、ミキシングレベルメーターに表示されます。最大音量が0dBを超えないように音量を調節します。

- 4 放送が終了したら、 を押す。

↓
 ボタンが白色に戻ります。

- 5 操作部の電源スイッチを押す。

↓
 操作部の電源が切れます。

モニターのしかた

- 1 音声放送画面の [音声モニター] を押す。



↓
 モニター選択画面が表示されます。



[2 音声]、[3 音声] は 1 系統のときは表示されません。

- 2 モニターするものを指で押す。

↓
 押したボタンが緑色に変わります。

[1]音声、[2]音声、[3]音声：1～3系統に放送中の音
 C D：CD (コンパクトディスク) プレーヤーの再生音
 テ プ：テープレコーダーの再生音
 音 声 ミ キ サ ー：音声ミキサーでミキシングした音
 マスターモニター：映像放送画面でマスターモニターに送り出されている音
 ク リ ア：選択を解除する場合

- 3 [とじる] を指で押す。

↓
 音声、映像放送画面に戻り、「音声モニター」欄に選択したものが表示されます。

- 4 音量をモニター音量つまみで調節する。

録音のしかた

1 [録音]を指で押す。



↓
録音選択画面が表示されます。

2 テープレコーダーに録音するものを指で押す。



↓
押したボタンが緑色に変わります。

- C D : CD (コンパクトディスク) プレーヤーの再生音
 音声ミキサー : 音声ミキサーでミキシングした音
 音声A、B、C : 入力設定 (54ページ) で設定された入力
- A VTR1、音声予備1・3¹の中から設定されたもの
 B VTR2、ワイヤレス、音声予備2¹の中から設定されたもの
 C VTR3、レピーター、ラジオの中から設定されたもの
- ク リ ア : 選択を解除する場合

1 : 予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

3 [とじる]を指で押す。



音声、映像放送画面に戻り、「録音」欄に選択したものが表示されます。

4 テープレコーダーを録音状態にする。

5 録音で選択した機器を動作させて録音レベルを調節する。音声ミキサーを選択したら、ミキサーの各音量つまみで音量を調節してください。

6 録音が終了したら、CDやテープレコーダーを止める。

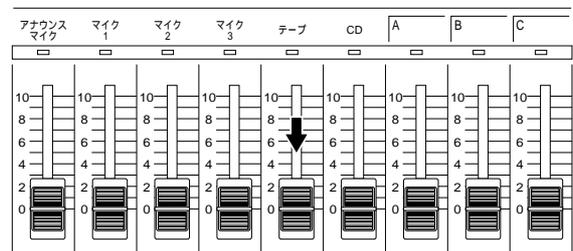
7 操作部の電源スイッチを押す。



操作部の電源が切れます。

ご注意

- モニターのしかたは音声放送をお読みください。
- 音声ミキサーでミキシングした音を録音するときは、必ずテープの音量つまみは下げてください。(上げると発振します。)



- テープレコーダーで録音したものは、個人として楽しむ他は、著作権法上の権利者に無断で使用できません。

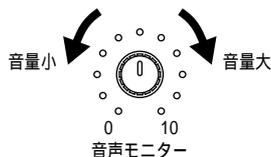
音声ミキサー操作のしかた

1 音声放送画面の「なにを」, 「録音」, 「音声モニター」などに「音声ミキサー」を選択する。あるいは映像放送画面の「なにを」, 「マスターモニター」, 「録画1」, 「録画3」などに「映像ミキサー」, 「アフレコ」を選択する。

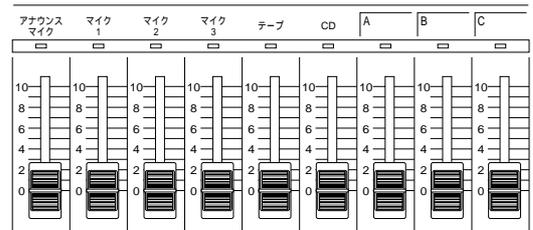


映像ミキサー、アフレコで使用するときは、音声放送画面の「音声モニター」に「音声ミキサー」または「マスターモニター」を選択します。

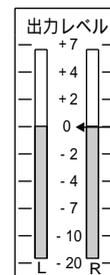
2 モニター音量つまみでモニタースピーカーの音量を調節する。



3 必要な音量つまみを上げ、ミキシングした音量を調節する。

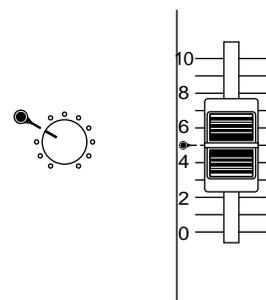


- ・LEDが点灯している音量つまみだけ調節できます。
- ・音量はミキシングレベルメーターで確認できます。最大音量が0dBを超えない程度につまみを調節してください。



0 dBを超えないようにつまみを調節してください。

- ・付属の音量表示ラベルはいつもご使用になっている調整位置に貼付けてご使用ください。



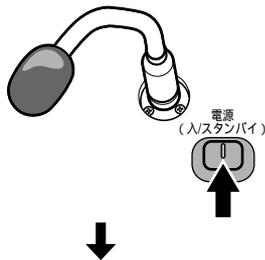
- ・音声A・B・Cの設定は54ページをお読みください。

映像放送のしかた

映像放送のしかた

- 「なにを」「放送」するのが決めます。

1 操作部の電源スイッチを押す。



操作モニターに音声、映像放送画面がでます。



「なにを」の選択

1 映像放送「なにを」を押す。

「なにを」画面が表示されます。

「なにを」画面（映像）



(WL-AV200A)



(WL-AV190)

2 放送するものを指で押す。



放送するものが緑色に変わります。(同時にマスターモニターも自動的に変わり、選択した映像と音声をモニターできます。)

VTR1、2、3 : VTR1、2、3の映像

LD / DVD : レーザーディスク (DVDプレーヤー) の映像 ¹

カメラ1~4 ³ : カメラ1、2、3、4の映像

O H C : OHCの映像

映像予備3、4 : それぞれに接続された機器の映像 ²

映像ミキサー : 映像ミキサー画面で作成した映像 ³

ク リ ア : 選択を解除する場合

1 : レーザーディスク (DVDプレーヤー) の音声は音声予備1~3のいずれかに、並列に接続します。

2 : 予備入力の名前は設定により変わる場合があります。

3 : 映像ミキサー (カメラ1~4、OHC) を選ぶと、音声は音声ミキサーから各室のテレビへ放送されます。

3 [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻り、「なにを」欄に選択したものが表示されます。

(例)「なにを」にVTR1を選んだとき



4 1~3を繰り返し、2~3系統に放送するものを選択する。

「放送」の選択

1  を押す。



指定した系統の  ボタンがオレンジ色に変わります。(オレンジ色は放送ONを示しています。)



白色(放送OFF) オレンジ色(放送ON)

これで放送可能な状態になります。「なにを」で選択した機器を動作させて放送します。

- ・VTRの場合は、VTRを再生状態にし、カメラの場合は、カメラを動作状態にして、被写体を写せば、放送されます。(VTRやカメラの取扱いはそれぞれの取扱い説明書をお読みください。)
- ・映像ミキサーを選択した場合は、音声ミキサーの各音量つまみで音量を加減してください。

2 放送が終了したら、VTRなどを止め、 を押す。



ボタンが白色に戻ります。

3 操作部の電源スイッチを押す。



操作部の電源が切れます。

映像モニターのしかた

モニター1に出す映像を選択する

1 映像放送画面の [モニター1] を押す。



モニター1選択画面が表示されます。



①映像(映像1系統に放送中の映像)、VTR1、カメラ1~3、映像予備1、3¹の中から選択できます。

- 1: 予備入力の名前は設定により変わる場合があります。

2 モニターするものを指で押す。



押したボタンが緑色に変わります。

3 [とじる] を指で押す。

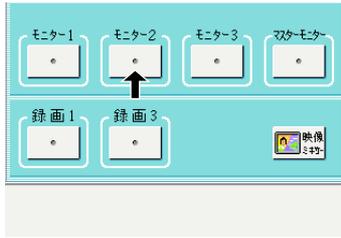


音声、映像放送画面に戻り、「モニター1」欄に選択したものが表示されます。

映像放送のしかた

モニター2に出す映像を選択する

1 映像放送画面の [モニター2] を押す。



モニター2選択画面が表示されます。



②映像（映像2系統に放送中の映像）、VTR2、カメラ2、4、映像予備2、4¹の中から選択できます。

1：予備入力の名前は設定により変わる場合があります。

2 モニターするものを指で押す。



押したボタンが緑色に変わります。

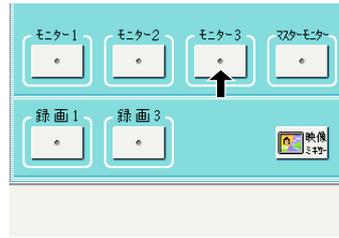
3 [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻り、「モニター2」欄に選択したものが表示されます。

モニター3に出す映像を選択する

1 映像放送画面の [モニター3] を押す。



モニター3選択画面が表示されます。



③映像（映像3系統に放送中の映像）、LD / DVD、カメラ1～4、OHC、VTR1～3、映像予備3、4¹、映像ミキサー²の中から選択できます。

1：予備入力の名前は設定により変わる場合があります。

2：WL-AV190をご使用の場合、 は表示されません。

2 モニターするものを指で押す。



押したボタンが緑色に変わります。

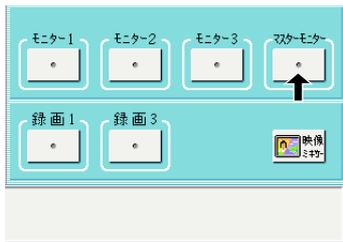
3 [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻り、「モニター3」欄に選択したものが表示されます。

マスターモニターに出す映像を選択する

1 映像放送画面の [マスターモニター] を押す。



マスターモニター選択画面が表示されます。



(WL-AV200A)



(WL-AV190)

LD (レーザーディスク) / DVD、VTR1~3、カメラ1~4²、OHC²、VTR1~3、映像予備3、4¹、映像ミキサー³の中から選択できます。

2 モニターするものを指で押す。



押したボタンが緑色に変わります。

3 [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻り、「マスターモニター」欄に選択したものが表示されます。

ご注意

モニター1~3、マスターモニターを選ぶ順序はどれを先に選んでもかまいません。

ご注意 (カメラ・OHCを使用する場合)

カメラ1~4、及びOHCを放送 (録画、またはマスターモニター出力) する場合、お使いの機種に応じて以下の制限があります。

WL-AV200A使用時

「なにを」(録画1・3、マスターモニター)画面でカメラ1~4またはOHCを直接選択することはできません。映像ミキサーを選択し、映像ミキサー画面上で使用する機器を選択してください。なお、映像ミキサーの操作のしかたは、45ページ以降をお読みください。

WL-AV190使用時

カメラ1~4またはOHCを放送出力 (録画、マスターモニター出力) している場合、他の放送出力・録画出力・マスターモニターにそれ以外のカメラ (OHC) を出力することはできません。異なるカメラ (OHC) を出力しようとした場合、最後に指定した機器に、すべての出力が変更されます。

1: 予備入力の名前は設定により変わる場合があります。

2: WL-AV200Aをご使用の場合は、 ~ と は表示されません。

3: WL-AV190をご使用の場合は、 は表示されません。

録画のしかた

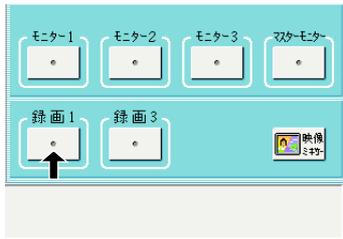
通常録画のしかた

VTR2へは録画できません。

ご注意

VTRで録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上権利者に無断で使用できません。

- 1 映像放送画面の[録画1]を指で押す。(VTR1に録画するとき)



VTR1録画選択画面が表示されます。



(WL-AV200A)



(WL-AV190)

(予備入力の名称は設定により変わる場合があります。)

- 2 VTRに録画するものを指で押す。

押したボタンが緑色に変わります。選択できるボタンは、次のとおりです。
LD/DVD、カメラ1~4、OHC
映像予備1または4、映像ミキサー

- 3 [とじる]を指で押す。

音声、映像放送画面に戻り、「録画1」欄に選択したものが表示されます。

- 4 VTR1を録画状態にする。

- 5 録画1で選択した機器を動作させて録音レベルを調節する。映像ミキサーを選択したら、音声ミキサーの各音量つまみで音量を加減してください。

- 6 録画が終了したら、VTR1やLDなどを停止する。

- 7 操作部の電源スイッチを押す。

操作部の電源が切れます。

モニターを選択

映像放送のモニター1~3と同じです。

VTR3に録画する場合

手順はVTR1の場合と同じです。

VTR3録画選択画面



(WL-AV200A)



(WL-AV190)

WL-AV200Aをご使用の場合は、カメラ1~4とOHCは表示されません。

映像ミキサー、カメラ1~4、OHCを選択すると音声は、音声ミキサーから出力されます。

WL-AV190をご使用の場合、映像ミキサーは表示されません。

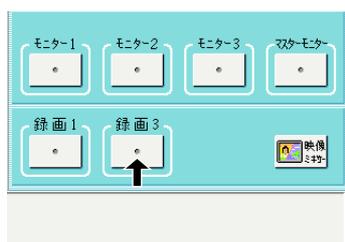
また、39ページ「ご注意(カメラ・OHCを使用する場合)」を合わせてお読みください。

ダビングのしかた

ダビングはVTR1または2を再生に、VTR3を録画にして行います。ダビングはY-C (Sビデオ)で行う場合と、通常ダビングの場合があります。

通常ダビングの場合

1 映像放送画面の [録画3] を指で押す。



↓
VTR3録画選択画面が表示されます。

2 [VTR1] (VTR1をダビングするとき) または [VTR2] (VTR2をダビングするとき) を指で押す。



↓
[VTR1] または [VTR2] が緑色に変わります。

3 [とじる] を指で押す。

↓
音声、映像放送画面に戻り、「録画3」欄に選択したものが表示されます。

4 VTR1または2を再生状態に、VTR3を録画状態にする。

↓
VTR1または2からVTR3へダビングされます。

5 ダビングが終了したら、VTR1または2、VTR3を停止する。

6 操作部の電源スイッチを押す。

↓
操作部の電源が切れます。

モニターの選択

映像放送のモニター1～3と同じ操作で選択できます。次のように選択すると、両方の画面をモニターできます。

モニター1	VTR1
モニター2	VTR2
モニター3、マスターモニター	VTR3

録画のしかた

Y-Cダビングの場合

Y-Cでダビングする場合は、VTRはS-VHS方式のものがが必要です。

WL-AV190をご使用の場合は、VTR3録画選択画面から直接YC入力した機器を選択できます（40ページ参照）。

WL-AV200Aをご使用の場合は、以下の操作を行なってください。

1 映像放送画面の [映像ミキサー] を指で押す。



映像ミキサー画面が表示されます。

2 「入力選択」A、B欄の [YC入力] を指で押す。



[YC入力] が緑色になる。

3 「入力選択」A、B欄の両方の [VTR1] (VTR1をダビングするとき) または [VTR2] (VTR2をダビングするとき) を押す。



4 [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻ります。



5 映像放送画面の [録画3] を指で押す。



録画3選択画面が表示されます。

6 [映像ミキサー] を指で押す。



[映像ミキサー] が緑色に変わります。

7 [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻り、「録画3」欄に「映像ミキサー」と表示されます。

8 VTR1または2を再生状態に、VTR3の入力切り換えスイッチをS-VHSに切り換え、録画状態にする。



VTR1または2からVTR3へダビングされる。

9 ダビングが終了したら、VTR1または2、VTR3を停止し、VTR3の入力切り換えスイッチをノーマルに戻す。

10 操作部の電源スイッチを押す。



操作部の電源が切れます。

ご注意

- モニターの選択は映像放送（37～39ページ）と同じです。
- Y-Cダビング中のY-C出力をモニターするにはY-C用（S-VHS）のモニターが必要です。

アフレコのしかた

VTR3をアフレコ状態にし、音声ミキサーからの音を録音します。（アフレコ機能付きのVTRが必要です。）

1 映像放送画面の [録画3] を指で押す。



VTR3録画選択画面が表示されます。

2 [アフレコ] を指で押す。



[アフレコ] が緑色に変わります。（アフレコをOFFにするには、[クリア] を押します。）

3 [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻り、「録画3」欄に「アフレコ」が表示されます。

4 VTRをアフレコ状態にし、音声ミキサーの音量つまみで、ミキシング音量を調整し、録音する。

5 アフレコが終了したら、VTR3を停止し、VTR3のアフレコ切り換えスイッチをノーマルに戻す。

6 操作部の電源スイッチを押す。

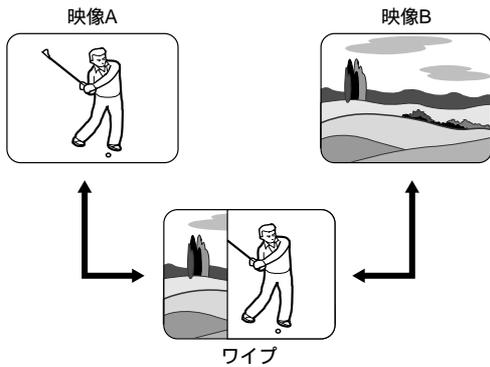


操作部の電源が切れます。

映像ミキサー（機能の説明）

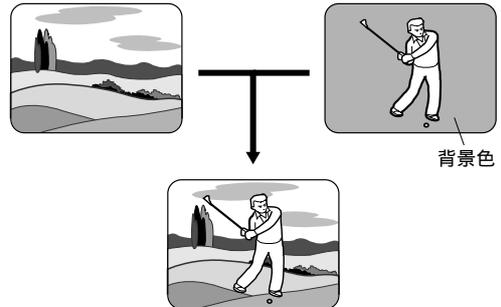
ワイプ

映像に別の映像を割り込ませ入れ換えます。ワイプパターンは標準23種類、スペシャル13種類から選択できます。



クロマキー

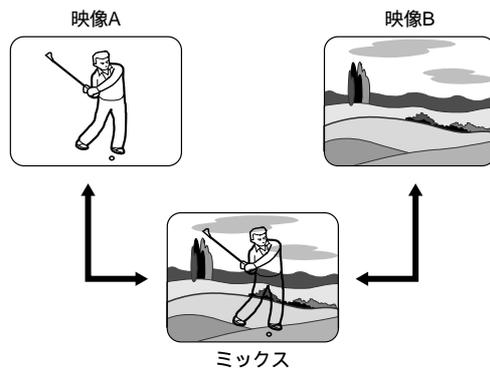
映像の特定の色を別の映像に入れ換えます。映像Bの背景色を抜くと、その部分に映像Aが合成されます。



ご注意
クロマキーを使用する場合は、レビュー用のモニターテレビが必要です。

ミックス

2つの映像をオーバーラップさせながら入れ換えます。



オートフェード

映像のフェードイン・フェードアウトが行えます。

（フェードアウト）



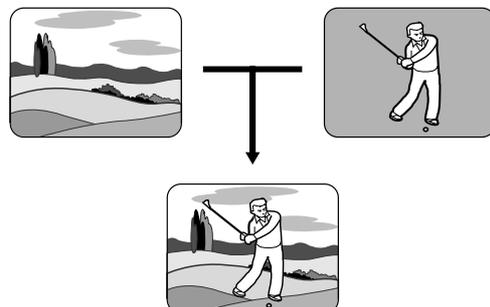
（フェードイン）



ご注意
手動のフェードイン・フェードアウトはできません。

ルミナンスキー

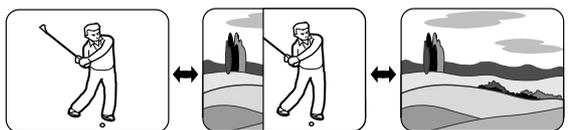
映像の明るい部分を別の映像に合成します。



自動切り換え []

ワイプやミックスのレバー操作をワンタッチで行えます。一定速度で操作したいときに便利です。

（ワイプ）



←一定速度で、ワンタッチで切り換えます→

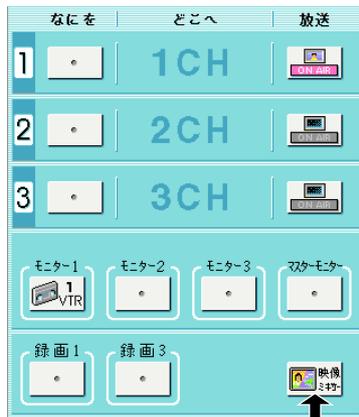
（ミックス）



映像ミキサー（操作のしかた）

映像ミキサー画面のオープン

音声・映像放送画面の[映像ミキサー]を押すと、映像ミキサー画面がオープンします。



映像ミキサー画面のクローズ

映像ミキサー画面の右上にある[とじる]を押します。映像ミキサー画面がクローズし、音声・映像放送画面が前面に表示されます。

入力映像の切り換え

映像ミキサーは、A・Bの2種類の映像を入力し、これらを切り換えたり、混ぜ合わせたりできます。

「入力選択」欄A・Bから、入力したい項目を選んでください。[背景]を選択すると、後述の「背景の設定」で設定した背景色・背景パターンの映像となります。

参考

YC端子に入力されている機器を選択する場合は、[YC入力]を押して選択状態にしてから、機器を選択してください。その後、通常のBNC端子に入力されている機器（NTSC入力）に選択を変更するときには、再度[YC入力]を押して非選択状態にし、機器を選択してください。

NTSC入力・YC入力の切り換えは、A側・B側それぞれ独立して設定できます。

スーパーインポーズのしかた

「入力選択」欄Aで選択した画面に、「入力選択」欄Bで選択したカメラ等で写したタイトルや映像をスーパーインポーズします。

スーパーインポーズの方法は、以下の2種類が選べます。

ルミネンスキー

B側の暗い部分にA側の映像を透過させることによって、A側の映像にB側の映像の明るい部分をスーパーインポーズします。

クロマキー

B側の特定の色の部分にA側の映像を透過させることによって、A側の映像にB側の映像の一部をスーパーインポーズします。

ご注意

プレビューモニターが接続されていない場合は、クロマキーを使用することはできません。

映像ミキサー（操作のしかた）

スーパーインポーズを行う

- ① スーパーを入れたい映像を、入力A側から選びます。
- ② スーパーを写すカメラや、あらかじめタイトルを録画してあるVTRなどを入力B側から選びます。
ルミナンスキーを使用する場合、**スーパーは黒の背景に白い文字で、太めの字体で描いてください**（白以外の文字も使用できますが、白が最もはっきり表示されます）。
クロマキーを使用する場合、スーパーは青や赤などのはっきりした色の付いた紙の上に、こちらも太めの字体で描いてください。文字の色は白や黒のほか、背景の色と補色関係にある色を使うとはっきり表示させることができます。
（白地に黒、黒字に白はクロマキーでは透過されません。）

参考

オーバーヘッドカメラWE-MV180Aなど、ネガポジ機能を持ったカメラを使用すると、白い紙に黒い字で描いたものをルミナンスキーでスーパーインポーズさせることができます。この場合、カメラ側の「ネガ（ネガポジ）」をONにして映像を入力してください。
なお、ネガポジ反転された映像をスーパーインポーズする場合、白黒以外の色は正しく表示されません（映像ミキサー画面で再度ネガポジ反転を行っても、元の色には戻りません）。

- ③ 入力B側にある[スーパーインポーズ]を指で押します。
「スーパーインポーズ設定」のパネルが表示されます。



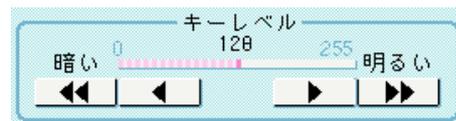
- ④ [ルミナンスキー][クロマキー]のどちらかを押します。

- ⑤ [クロマキー]を押した場合は、プレビューモニター上にカーソルが表示されますので、ジョイスティックを操作して背景など透過させたい色の付いた部分にカーソルを合わせ、[キーセット]を押します。
- ⑥ うまくスーパーインポーズされない場合は、[キーレベル]ボリュームを操作します。
いったん[インポーズ解除]ボタンを押してスーパーインポーズを抜け、文字以外の部分まで抜けているときは「暗い」の方向に、文字が十分に表示されていない場合は「明るい」の方向にキーレベルを変更します。変更後、再度[ルミナンスキー]または[クロマキー]を押してスーパーインポーズさせてください。

◀、▶を押すとレベルが1段階ずつ増減します。

◀◀、▶▶を押すとレベルが16段階ずつ増減します。

0（もっとも暗い）から255（もっとも明るい）までの256段階が設定可能です。



ご注意

キーレベルは、スーパーインポーズが行われている状態では変更することができません。必ずインポーズ解除を行ってからキーレベルの変更を行ってください。

映像をフリーズさせる

映像を静止画にするときに、フリーズを使用します。フリーズはA側・B側それぞれに独立してかけられます。

フリーズする側の[フリーズ]を押してください。[フリーズ]が緑色になり、映像が静止します。もう一度[フリーズ]を押すと、フリーズが解除されて映像が動きだします。

デジタル効果の設定

デジタル効果は、ストロボ・モザイク・ペイント・ネガポジ・色あい・色のこさの6種類が設定できます。各々のデジタル効果は、組み合わせて使うこともできます。

デジタル効果を使用する場合は、以下のように操作してください。

- ① 各デジタル効果のかかりかたを個別に設定します。
A側・B側それぞれ独立したデジタル効果を設定できます。
各デジタル効果の設定は、この後で説明します。
- ② A側に①で設定したデジタル効果をかける場合はA側の [オフ / オン] を、B側の場合はB側の [オフ / オン] を押します。
[オフ / オン] ボタンが緑色になり、 で設定したデジタル効果がかかります。
- ③ 必要に応じて、各デジタル効果のかかり方を調整します。操作方法はこの後で説明します。
- ④ A(B)の側のデジタル効果をやめ通常の映像に戻すときは、A(B)側の [オフ / オン] を押します。
ボタンが白色に戻り、A(B)側の映像に対するデジタル効果が消えます。

ストロボ・モザイク・ペイント

ストロボは、映像をコマ送りにする効果です。コマ送りの間隔は、0.15秒から2.08秒までの5段階で調節できます。

モザイクは、映像の荒さを変更してモザイク状の映像を作り出す効果です。

ペイントは、映像の階調数を減らし、絵画のような映像にする効果です。

これら3つのデジタル効果の操作方法は以下のとおりです。

各ボタンを押すと、ボタンが緑色になり一番弱い効果がかかります。更に押すと、効果の強さが変わります。最大効果の状態ではボタンが白に変わって効果がOFFになります。

効果の強さはボタンの下の部分にボリューム表示されます。ボリュームの赤の部分が多いほど強く効果がかかっていることを示します。



効果の強さが表示されます

ストロボ・モザイクは5段階、ペイントは4段階の効果が選べます。

ご注意

デジタル効果 [オフ / オン] ボタンがON状態になっていない場合は、上記操作を行ってもデジタル効果はかかりません。

ネガポジ

映像の輝度（明るさ）を反転する効果です。

[ネガポジ] を押し、ボタンを緑色の状態にすると効果がかかります。

もう一度押してボタンを白の状態にすると効果が消えます。

ご注意

- 既にネガポジ反転されている映像を本機に入力し、もう一度ネガポジ反転を行っても、元通りの映像には戻りません。
- デジタル効果 [オフ / オン] がON状態になっていない場合は、上記操作を行ってもデジタル効果はかかりません。

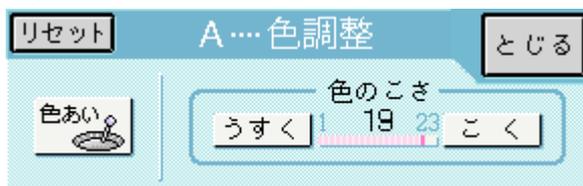
色あい・色のこさ

映像の画質を調整する効果です。

色あいは、映像の色あいを変更できます。

色のこさは、映像の色の濃さを変更できます。

[色調整] を押すと、「色調整」パネルが表示されます。



映像ミキサー（操作のしかた）

「色調整」パネル右上の[とじる]を押すと、パネルが閉じます。パネルを閉じて調整した色あい・色のこさは保存されます。

色あいを変更したい場合は、[色あい]を押してください。ボタンが緑色になり、色あいの変更が有効になったことを示します。色の設定はジョイスティックを操作して行います。

ご注意

デジタル効果[オフ/オン]がON状態になっていないと、ジョイスティックを操作しても色は変わりません。
デジタル効果[オフ/オン]を押し、緑色の状態にさせてからジョイスティックを操作してください。

色のこさを変更したい場合は、「色のこさ」欄のボリュームを操作してください。
1（最もうすい）～23（最もこい）の23段階が選択できます。
ボリュームの操作の詳細は、この後の「ボリューム類の操作」の項で詳しく説明します。

ご注意

デジタル効果[オフ/オン]がON状態になっていないと、[こく][うすく]を操作しても色のこさは変わりません。デジタル効果[オフ/オン]を押し、緑色の状態にさせてから[こく][うすく]を操作してください。

参考

「色の調整」パネル内の[リセット]を押すと、色あいと色のこさだけを初期状態に戻すことができます。

ミックス/ワイプ

ミックスは、A側・B側2つの映像をオーバーラップさせながら入れ換えます。

ワイプは、どちらかの映像にもう一つの映像を割り込ませて入れ換えます。

ミックス・ワイプによる映像の入れ換えには、ワンタッチで自動的に入れ換える方法と、ミックス/ワイプつまみを操作して手動で入れ換える方法の2つがあります。

ご注意

後述の「スペシャルワイプパターン」の中には、手動で入れ換える方法が使えないものがあります。

ワイプパターン

ワイプにおける割り込ませ方の方式は「ワイプパターン」と呼び、様々な種類が用意されています。
ワイプパターンは、6種類の基本的なパターン（「基本（ワイプ）パターン」と呼びます）と、13種類の特殊なパターン（「スペシャル（ワイプ）パターン」と呼びます）に大別されます。

参考

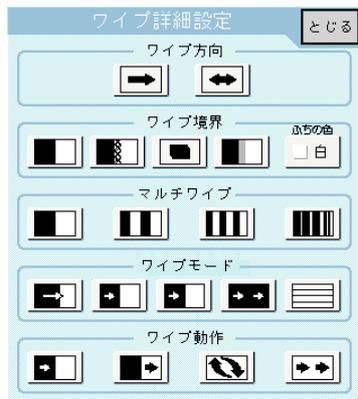
[ワイプ]が選択されたときは、最後に選択されたパターンが自動的に選択状態になります。何も選択されていない状態にすることはできません。

なお、工場出荷状態やりセット後は、6つの基本パターンのうち一番左上のパターンの一番左のサブパターン（サブパターンについては後述します）が選択状態になります。

基本ワイプパターン

6種類の基本ワイプパターンは、割り込ませる位置や形によって、各々が更に3～4種類のサブパターンに分けられます。また、の4つのサブパターンは、ジョイスティックで割り込んだ映像の位置を移動できます。

また、以下に示す詳細設定を行うことができます。（工場出荷直後や電源を入れ直したときには、「通常」と記された内容に各項目が設定されます。）



- ・ワイプ方向：ワイプする方向を以下の2種類の中から設定できます。

：一方向にのみ移動します。(通常)

：反復動作します。例えば今回左右に移動したとすると、次は右左に移動します。

- ・ワイプ境界：A側映像とB側映像の境目について、以下の3種類から設定できます。

：境界の処理を行いません。(通常)

：境界部分をぼやけさせ、映像をソフトに切り換えます。

：境界部分に特定の色をつけます。色は8種類が選択できます。

(の境界処理は、一部のスペシャルパターンにのみ設定できます。)

- ・マルチワイプ：

映像を細かい画面に分け、それぞれに指定されたワイプを行うことができます。4種類が選択可能です。ただし、ワイプ境界が「なし」以外の設定になっているときはボタンが網掛け表示され、設定できません。また、逆にマルチワイプが「なし」の状態になっていないと、ワイプ境界を設定することはできません。

- ・ワイプモード：

ワイプ動作中、2つの映像がどのように切り換えられて行くのかを指定します。5種類が選択可能です。ただし、ワイプパターンとマルチワイプの設定の組み合わせ状態によっては、一部選択できないものがあります。(ボタンが網掛け表示され、選択できなくなります。)

ご注意

- ・ワイプモードを  または  に設定した場合、フリーズとストロボは使用できません。逆に、フリーズやストロボが設定されている場合、これらのワイプモードを設定できません。
- ・ワイプモードを  に設定した場合、ストロボは使用できません。逆に、ストロボが設定されている場合、このワイプモードを設定できません。

- ・ワイプ動作：

ワイプモードで選択した切り換え方式の適用のしかたを指定します。4種類が選択可能です。ただし、ワイプパターンとワイプモードの設定の組み合わせ状態によっては、一部選択できないものがあります。ワイプ境界やマルチワイプの設定を変更した場合も、これに伴ってワイプモードの設定が変わるため、選択可能な項目が変化します。

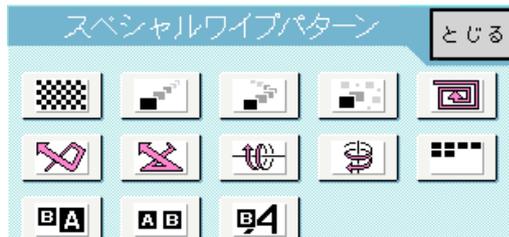
ワイプの詳細は付録の「ワイプの動作イメージ」をお読みください。

詳細設定は、選択中のワイプパターンにのみ有効で、ワイプパターンを選択し直した場合は、上記や付録の表で「通常」と記された項目に設定されます。ただし、同一のワイプパターン内でのサブパターンの変更では、設定内容は保存されます。(サブパターンの変更により、詳細設定が設定不能な組み合わせとなる場合は、詳細設定の一部が自動的に変更されます。)

映像ミキサー（操作のしかた）

スペシャルワイプパターン

スペシャルワイプパターンには、標準パターンのようなサブパターンはありません。13種類の中からどれか一つを選択します。



- ・スペシャルパターンが選択されているときは、A/Bどちらか、または両方のフリーズとストロボは使用できません。逆にA/Bどちらか、または両方にフリーズかストロボが設定されている場合、スペシャルワイプパターンは選択できません。
- ・**B4**を選択したときは、ジョイスティックで縮小画面の位置を上下左右に移動できます。
- ・**AB**を選択したときは、ジョイスティックで縮小画面の位置を上下に移動できます。
- ・ の各パターンが選択されているときは、A/Bどちらか、または両方の映像に「背景」を選択することはできません。逆に、A/Bどちらか、または両方の入力として「背景」が選択されている場合、これら3つのパターンは選択できません。
BA **AB** **B4** の各パターンが選択されているときは、「背景」は選択可能ですが映像表示されません。
- ・詳細設定は、**AB** **B4** の2つのパターンに対し、「ワイプ境界」だけを設定することができます（その他の項目の全てのボタンはかすれ表示となり、押せません）。また、これらの2つのパターンに対して設定できるワイプ境界は以下のとおりで、標準パターンとは一部異なります。

: 境界の処理を行いません。(通常)

: 境界部分に影を付け、映像が浮き上がって見えるようにします。

: 境界部分に特定の色をつけます。色は8種類が選択できます。

(の境界処理は、標準パターンにのみ設定できます。)

- ・**AB** **B4** 以外のスペシャルパターンが選択されているときは、詳細設定を行うことはできません（「詳細設定」のボタンは押せますが、詳細設定パネルの「ふちの色」以外の全項目のボタンが選択不能となります）。
- ・ の各パターンは、ミックス/ワイプのつまみによる手動の入れ換えは出来ません。

ミックス・ワイプの基本的な操作

- ① 現在の状態を確認します。

[ミックス] または [ワイプ] のどちらか緑色表示している方が現在の状態を示しています。

[ミックス] が緑の状態ですら [ワイプ] を押し、ワイプに変更することができます。

[ワイプ] が緑色の状態ですら [ミックス] を押し、ミックスに変更することができます。

参考

ミックス・ワイプどちらかは必ず選択された状態となります。どちらも使用したくない場合は、選択した映像に応じてフェーダーつまみをA側かB側に移動させてお使いください。

- ② ワイプを行う場合は、更にワイプパターンを選択します。選択方法はこの後で詳しく説明します。
- ③ 必要に応じて [ワイプ設定] を押し、ワイプの詳細設定を行います。

ご注意

詳細設定の内容は、選択したパターンやそのときの詳細設定の内容によって変更できないものがあります。
詳細は前述の「ワイブパターン」の項をお読みください。

- ④ ワイブの一部のパターンでは、ジョイスティックで割り込む映像の位置を変更できるものがあります。必要に応じて位置を設定してください。

- ⑤ を押します。または、ミックス/ワイブのフェーダーつまみを手で操作します。

を押したときは、タッチパネル画面に動作中を示すパネルが表示され、

- ・A側の映像が表示されていた場合は、指定したパターンで、だんだんとB側の映像に切り換わります。
- ・B側の映像が表示されていた場合は、指定したパターンで、だんだんとA側の映像に切り換わります。

動作中パネルは、ミックス/ワイブの動作が完了すると消えます。

ミックス/ワイブのつまみを操作したときは、つまみの位置に対応した割合でA側の映像とB側の映像がミックス/ワイブされます。

ご注意

- スペシャルパターンの一部には、ミックス/ワイブつまみでは操作できないものがあります。詳細は前述の「スペシャルワイブパターン」の項をお読みください。
- 自動切り換えの動作中は、ミックス/ワイブつまみの操作はしないでください。操作すると、カメラタリーが正しく点灯しなくなる場合があります。誤ってつまみを動かしてしまった場合は、動作中のパネルが閉じた後に、表示されている映像側につまみを移動し切ってください。(AB両方が表示されているときは、ABいずれかの側に移動し切ってください。)

参考 - 自動切り換えとつまみの関係 -

- ・ ミックス/ワイブつまみがA (B) 側にある状態で自動切り換えを行った場合、つまみはA (B) 側ですがB (A) 側の映像が表示されています。このような状態のときは、一度B (A) 側につまみを移動し切るまでの間、手動操作は無効になります。

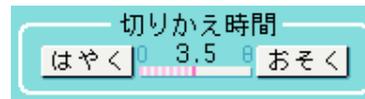
- ・ 手動操作で途中までミックス/ワイブを行った後に を押した場合は、つまみの位置により動作の方向が決まります。

- ・ つまみが中央よりA側の位置で を押したときは、A → Bの動作になります。

- ・ つまみが中央よりB側の位置で を押したときは、B → Aの動作になります。

いずれの場合も、そのとき表示されている画面 (途中までミックス/ワイブされた状態) から自動切り換えが始まります。

- ⑥ AB切り換えの速度は、「切りかえ時間」のボリュームを操作して変更することができます。必要に応じて時間を設定してください。



ご注意

「切りかえ時間」ボリュームは、フェードイン/アウトの時間と共通です。従ってボリュームを操作すると、フェードイン/アウトの所要時間も同時に変わります。

ワイブパターンの選択

ワイブパターンの選択方法は、基本パターンとスペシャルパターンで異なります。

基本ワイブパターンの選択

- ① ワイブパターンを6種類の中から選択し、押しします。
ボタンが緑色になり選択されて、下側に2～3個のサブパターンが現れます。
上段に大きく表示されているサブパターン (下段では空欄になっている) が現在選択されているものです。

映像ミキサー（操作のしかた）

- ② 更にボタンを押すとサブパターンが1つ右に移動し、上段に大きく表示されます。

今まで上段に表示されていたサブパターンは、下段に小さく表示されます。



別の基本パターンのボタンを押すと、今まで選択表示されていたボタンは白色に戻り、サブパターンの一覧表示も消えます。

スペシャルワイプパターンの選択

- ①  を押すと、13種類のスペシャルパターンの選択パネルが表示されます。

パネルがオープンした直後の状態では、映像ミキサー画面に表示されているスペシャルパターンが選択状態になっています。

右上の[とじる]を押すと閉じることができます。

- ② 好みのスペシャルパターンを押すと、そのボタンが緑色になり選択されます。

（以前選択していたスペシャルパターンは、選択解除されます）

選択されたスペシャルパターンに応じて、映像ミキサー画面の[スペシャル]上段のアイコンが変化します。

参考

スペシャルパターン選択パネル表示中も、標準パターンを選択することができます。この場合、「スペシャル」ボタンの反転が解除されます。また、選択パネル上のボタンも同時に選択解除されます。

また、この状態から再度スペシャルパターンに戻したい場合には2つの方法があります。

A.[スペシャル]を押します。

[スペシャル]と、標準パターンを選択する前に選択されていたスペシャルパターン（[スペシャル]上段にアイコン表示されているもの）のボタンがそれぞれ選択状態になります。

B.選択パネル上から、選択したいスペシャルパターンを直接押します。

押したボタンと、[スペシャル]が選択状態になります。また、[スペシャル]上段のアイコンが今回押したスペシャルパターンと異なる場合は、新しいパターンのアイコンに変化します。

フェードの設定

映像フェードアウト/フェードインを行う機能です。操作方法は以下のとおりです。

- ① フェードアウトしたときの色を選択します。
色は[白] [黒] または[背景]の3種類から選べます。
- ② [フェードイン/アウト]を押します。
だんだんと映像が薄れ、で設定した色/背景になって行きます（フェードアウト動作）。
- ③ もう一度[フェードイン/アウト]を押します。
①で設定した色/背景から、だんだんと映像が表示されます（フェードイン動作）。

フェードの動作中は、動作中を示すパネルがタッチパネル画面上に表示されます。フェードの動作が完了すると動作中パネルは自動的に閉じます。

フェードの切換スピードを調節したい場合は、「切りかえ時間」のボリュームを操作します。

ご注意

「切りかえ時間」ボリュームは、ミックス/ワイプの自動切り換えの時間と共通です。従ってボリュームを操作すると、ミックス/ワイプの自動切り換え時間も同時に変わります。

フェードは映像だけが対象になります。VTR等の音声はフェード動作しませんので、必要に応じて音声ミキサーのボリュームつまみを操作してください。

背景の設定

フェードアウトしたときの背景の色やパターンを変更することができます。また、A/B映像で[背景]を選択したときのもこの背景を表示させることができます。

背景色を変更する

[背景色]を押すとパネルが表示されますので、好みの背景色を選択します。
背景色のパネルは、右上の[とじる]を押すといつでも閉じられます。



背景パターンを変更する

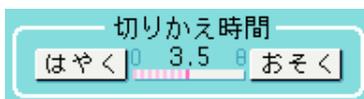
[背景パターン]を押すとパネルが表示されますので、好みの背景パターンを選択します。
背景パターンのパネルは、左上の[とじる]を押すといつでも閉じられます。



ボリューム類の操作

「切り替え時間」及び「色の調整」パネルにある「色のこさ」は、以下のように操作します。

- ① 現在のボリュームの設定値を確認します。
設定値の位置のバーが赤くハイライトしています。
また、バーの上に現在の設定値が数値表示されています。



- ② 現在値よりも速く(うすく)したい場合は[はやく]([うすく])を、
現在値よりも遅く(こく)した場合は[おそく]([こく])を押します。
ボタンを押した方向に、ハイライトするバーが移動します。

ミキサー出力を録画する

ミキサー機能で合成された映像は、VTR1またはVTR3に出力することができます。
[録画1]または[録画3]のボタンで設定を行います。
それぞれのボタンの操作は、映像放送画面にある[録画1][録画3]のボタンと同じで、設定内容もお互いに同期して変更されます。

ミキサー機能をリセットする

画面左上の[リセット]を押すと、ミキサー機能を初期化することができます。

ご注意

[リセット]を押すと、ミキサー画面で行った大部分の設定内容が変更されますので、取り扱いには十分注意してください。

参考

[リセット]を押した後の状態は、以下のようになります。

A側/B側の入力映像：	リセット前と変化なし
信号切り換え：	A、B共リセット前と変化なし
スーパーインポーズ：	解除
フリーズ：	A、B共解除
録画出力：	1、3共リセット前と変化なし
背景：	白、パターン：ノーマル
デジタル効果：	OFF、全ての効果が無効
ミックス/ワイブ：	ワイブ
ワイブパターン：	
ワイブ方向：	
ワイブ境界：	
ワイブのふちの色：	白
マルチワイブ：	
ワイブモード：	
ワイブ動作：	
フェード後の色：	白
切り替え時間：	3.5

入力設定・変更

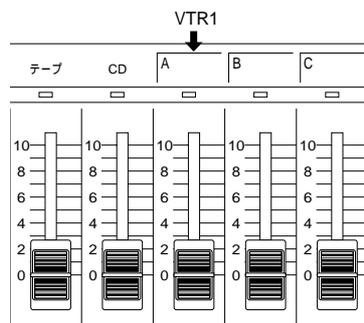
ラジオ・予備入力・レピーターなどを放送、録音するとき（音声ミキサーA、B、Cの入力の設定）

音声ミキサーの音量つまみA、B、Cは、次のように3入力の中から1つを選択することができます。

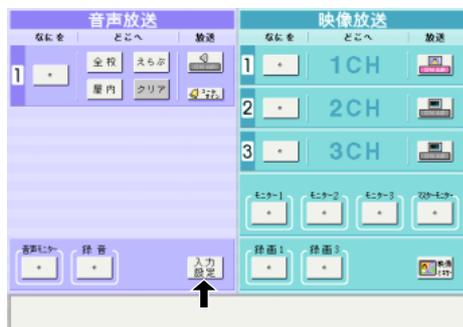
- A：VTR1、音声予備1、3 1の中から1つ選択。
- B：VTR2、ワイヤレス、音声予備2 1の中から1つ選択。
- C：VTR3、ラジオ、レピーターの中から1つ選択。

1：予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

（例）入力AをVTR1に設定する。



1 音声放送画面の[入力設定]を指で押す。



入力設定画面が表示されます。

2 [VTR1]（選択したいもの）を指で押す。



[VTR1]（選択したもの）が緑色に変わります。
 ・B、C入力も変更したい場合は、Aと同様に選択します。

3 [とじる]を指で押す。

音声、映像放送画面に戻ります。

ご注意

- この画面を用いて「音声A、B、C設定」を手で変更して、電源スイッチをOFFにすると、次の電源ONからその内容が反映されます。音声パターン（登録された内容）により変更された場合は一時的なもので上記の内容は保持されます。
- 音声ミキサーAに予備入力1を設定して使用する場合は、あらかじめ予備入力レベル調整つまみ（13ページ、㊸）を回して正常な音量になるように調節してください。このとき音声ミキサーのつまみAは中央付近に設定してください。

音声ミキサーの設定

音声ミキサーの音量つまみを個別に有効または無効にできます。無効にすると、該当する音量つまみを操作しても音が出なくなります。

1 音声放送画面の [入力設定] を指で押す。



入力設定画面が表示されます。

2 音声ミキサーの動作させたい (動作させない : OFF) 入力を指で押す。



動作させるもの 緑 (ON) に設定。
動作させないもの 白 (OFF) に設定。
(ON に設定したものは、パネルの音声ミキサーのLEDがそれぞれ点灯します。)

3 設定が終わったら [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻ります。

VTR2入力コネクタの切り換え

VTR2は、前面と後面に入力コネクタがあり、画面上で切り換えられます。

1 音声放送画面の [入力設定] を指で押す。



入力設定画面が表示されます。



2 [前面] または [後面] を指で押す。

3 設定が終了したら [とじる] を指で押す。



音声、映像放送画面に戻ります。

音声・映像パターン操作の内容変更

音声・映像パターン操作

本機は、予め放送や、録音、録画の操作を音声・映像各37個（標準7個、拡張30個）のスイッチに登録しておき、パターンスイッチを押すと、その内容を読み出して動作します。出荷時は、標準パターン音声7つ・映像6つのパターンが登録されています。

内容変更・登録のしかた

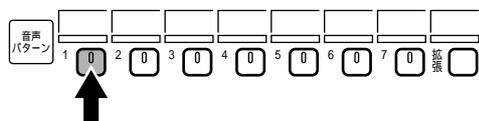
新たに登録すると、前に登録されていた状態は消されます。

(例) 音声パターンスイッチ①(個別放送1)「アナウンスマイク」の音を個別指定されたスピーカーに放送する。これを「テープ」の音を「全校」のスピーカーに放送するように変更します。

1 操作パネルの電源スイッチを押す。

操作モニターに音声、映像放送画面が出ます。

2 音声パターンスイッチ①を押す。



音声放送画面が表示されます。
(ここまではパターン操作と同じです。)



3 必要な変更を行う。

ここでは「なにを：アナウンスマイク テープ」
「どこへ：個別 全校」の変更を行いません。

① [なにを：アナウンスマイク] 表示を押します。
(変更したいものを選択する)

[なにを] 選択画面が表示されます。



② [テープ] を選択したのち [とじる] を指で押します。

③ [どこへ：全校] を指で押します。(変更したいものを選択する)

[全校] が緑色に変わります。

4 パターンスイッチへ登録します。パターンスイッチへは、現在表示されている状態が登録されます。

- ① 登録スイッチを押します。



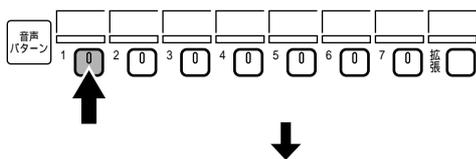
登録スイッチのLED点灯する。

- ② スタジオ連絡スイッチを押します。



(本来のスタジオ連絡機能は動作しません)

- ③ 標準パターンに登録する場合は音声パターンスイッチ① (登録したいパターンスイッチ) を押します。



スイッチのLEDが3秒間点滅します。

- ④ LED点滅中に再び音声パターンスイッチ①を押します。
LED点滅が止まり、登録されます。
- ⑤ 拡張パターンに登録したい場合は、①、②の操作の後に音声パターン拡張スイッチを押します。音声、映像放送画面の上に30個のスイッチが表示されます。
- ⑥ 設定したいパターンスイッチを押します。登録確認のパネルが表示されます。登録するときは[設定]を、取り消すときは[取り消し]を選択します。

5 音声放送でパターンスイッチを押したときに、コールサインを流したい場合。

- ① 登録スイッチを押します。
- ② スタジオ連絡スイッチを押します。
- ③ コールサインスイッチを押します。(本来のコールサイン機能は動作しません)
- ④ 音声パターンスイッチ① (登録したいパターンスイッチ) を押します。スイッチのLEDが3秒間点滅する。
- ⑤ LED点滅中に再び音声パターンスイッチ①を押します。LED点滅が止まり、登録されます。
- ⑥ 拡張パターンに登録したい場合は、以下の手順で操作してください。

1. 登録スイッチを押します。
2. スタジオ連絡スイッチを押します。
3. 音声パターン拡張スイッチを押します。
音声、映像放送画面の上に30個のスイッチが表示されます。
4. 30個のスイッチの左上部にある [コールサイン] ボタンを押して緑色にします。
5. 設定したいパターンスイッチを押します。登録確認のパネルが表示されます。
登録するときは [設定] を、取り消すときは [取り消し] を選択します。

6 確認するには、操作パネルの電源スイッチを切り、再び電源入りにして、音声パターンスイッチ①を押すと、登録した画面が表示されます。

音声・映像パターン操作の内容変更

新規設定登録のしかた

1 音声放送、映像放送、録画について、各項目の説明を参照しながら、必要な設定をしてください。

- 音声パターンスイッチへの登録は、操作画面に現在表示されている音声放送の状態が登録されます。
- 映像パターンスイッチへの登録は、操作画面に現在表示されている映像放送の状態が登録されます。

2 操作画面設定ができたら、登録したいパターンスイッチについて、前項4、5、6の手順で登録してください。(前に登録されていた状態は消されます。)

ご注意

- 映像放送の「なにを」「モニター」「録画」のどこにも「映像ミキサー」が設定されていない場合、映像ミキサー画面の設定内容はパターンスイッチには登録されません。
- パターンの登録内容を変更した場合、本書の前半部分の内容と動作が変わります。他の利用者に無断で内容を変更しないようにしてください。また、本書の最後にある「パターン登録内容記述シート」などを利用し、変更内容が明確になるようにしてください。

入力設定内容について

音声・映像パターン登録時に、入力設定の音声ミキサーのA、B、C入力の設定を変更して登録した場合は、音声パターンごとにA、B、C入力の設定を変更することができます。またこのパターンスイッチを押すことにより、初期のA、B、C入力設定と変わることがありますので注意してください。

ご注意

- [なにを]、[録音]、[モニター]で[音声ミキサー]を選択してある場合に入力設定の[音声ミキサーボリューム有効/無効]と[音声A、B、C]のスイッチの内容が登録されます。
- [録音]で[音声A、B、C]のどれかを選択してある場合に対応する入力設定[A、B、C]のスイッチの内容が登録されます。

前と同じ状態で使いたい(ラストワンメモリーのしかた)

操作部の電源を切る前の状態を記憶し、次に使用するとき同じ状態で使用します。(映像操作のみ)

記憶(登録)するとき

1 映像放送、映像ミキサー、録画など、映像操作画面で記憶しておきたい状態を設定します。画面に表示されている状態が記憶されます。

2 登録スイッチを押す。



登録スイッチのLED点灯します。

3 ラストワンメモリースイッチを押す。



登録スイッチのLEDが消灯し、ラストワンメモリースイッチのLED点灯します。
(再び押すと、登録はキャンセルされます)

4 操作部の電源スイッチを切る。

ご注意

- ラストワンメモリーの設定内容は操作部の電源スイッチを切ったときに登録されます。登録操作を行ったら、最後に必ず操作部の電源スイッチを切ってください。
- 操作部の電源スイッチを切らずに予備入力パネルの主電源スイッチを切ると、登録されている内容は記憶されません。
- 映像放送の「なにを」「モニター」「録画」のどこにも「映像ミキサー」が設定されていない場合、映像ミキサー画面の設定内容はパターンスイッチには登録されません。

記憶を呼び出すとき

1 操作部の電源スイッチを押す。

2 ラストワンメモリースイッチを押す。



登録した状態が再現されます。

登録された内容は、再度登録スイッチが押される(記憶内容を更新する)まで有効です。

ご注意

電源スイッチを押してから、何か他の操作を行なった後でラストワンメモリースイッチを押した場合、以前の状態が正しく再現されない場合があります。ラストワンメモリーは、必ず電源スイッチを押した直後に押してください。また、誤ってラストワンメモリースイッチを押してしまった場合は、一度電源スイッチを切り、再度入れ直してください。

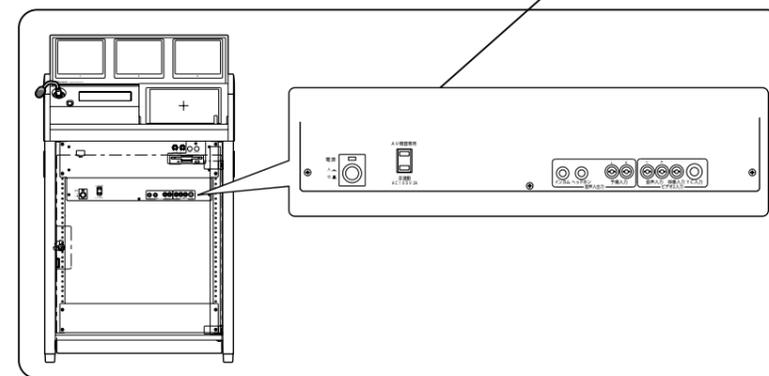
リモコン放送のしかた

マルチリモコンマイク (WR-300) から放送するとき

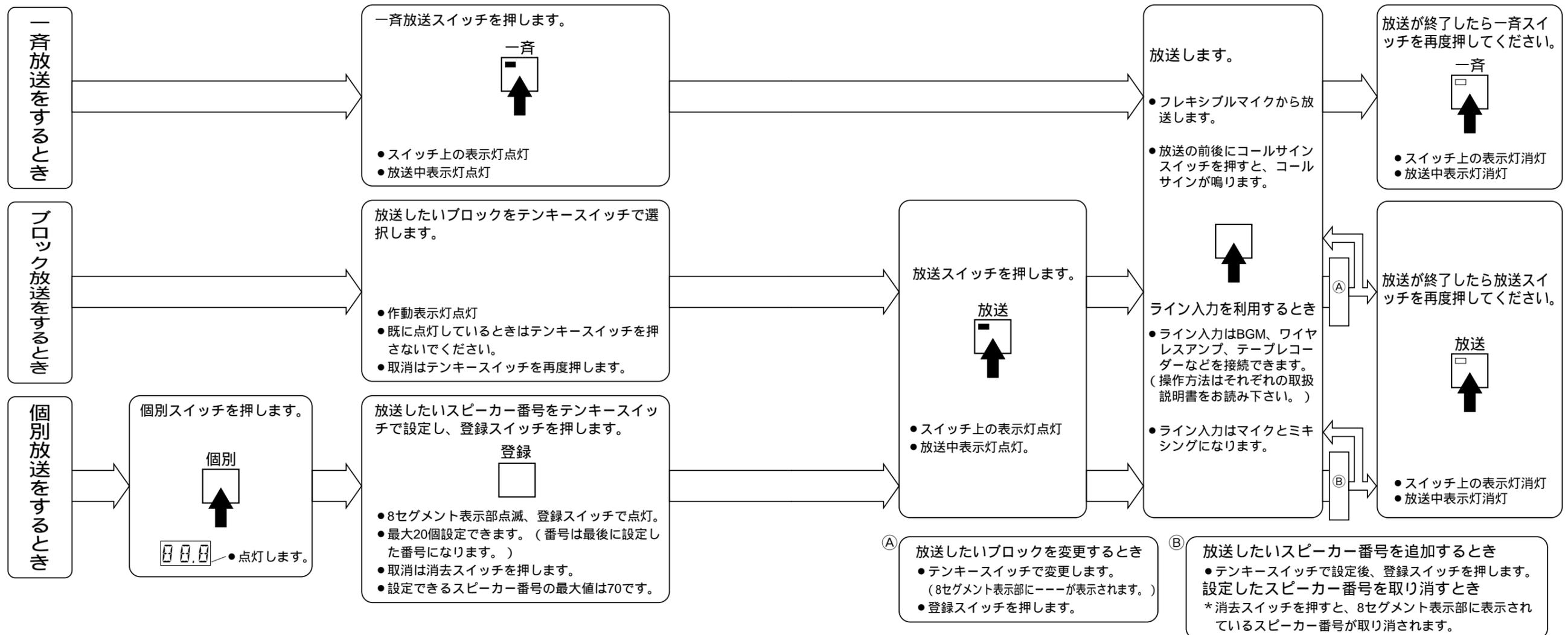
ご注意

- ブロック放送は次の手順でも放送できます。
放送スイッチを押します。
テンキースイッチでブロックを選択し、登録スイッチを押します。
放送します。
放送が終了したら、放送スイッチを再度押します。
- 付属の記名シートに設置したスピーカーの登録番号を記入しておく
と便利です。
- スタジオスピーカーはスタジオ連絡用なので、放送はされません。
- 複数マルチリモコンから同時に放送することは出来ません。

AVステーション側は



操作の前には必ず予備入力パネル部にある「主電源スイッチ」を「入」にしてください。



リモコン放送のしかた

- リモコン使用時には、操作モニターに「R」の文字を表示します。
(操作部の電源スイッチが「切」状態のときは「リモコン」と表示します。)

AVリモコン放送 (音声・映像同時に放送する)

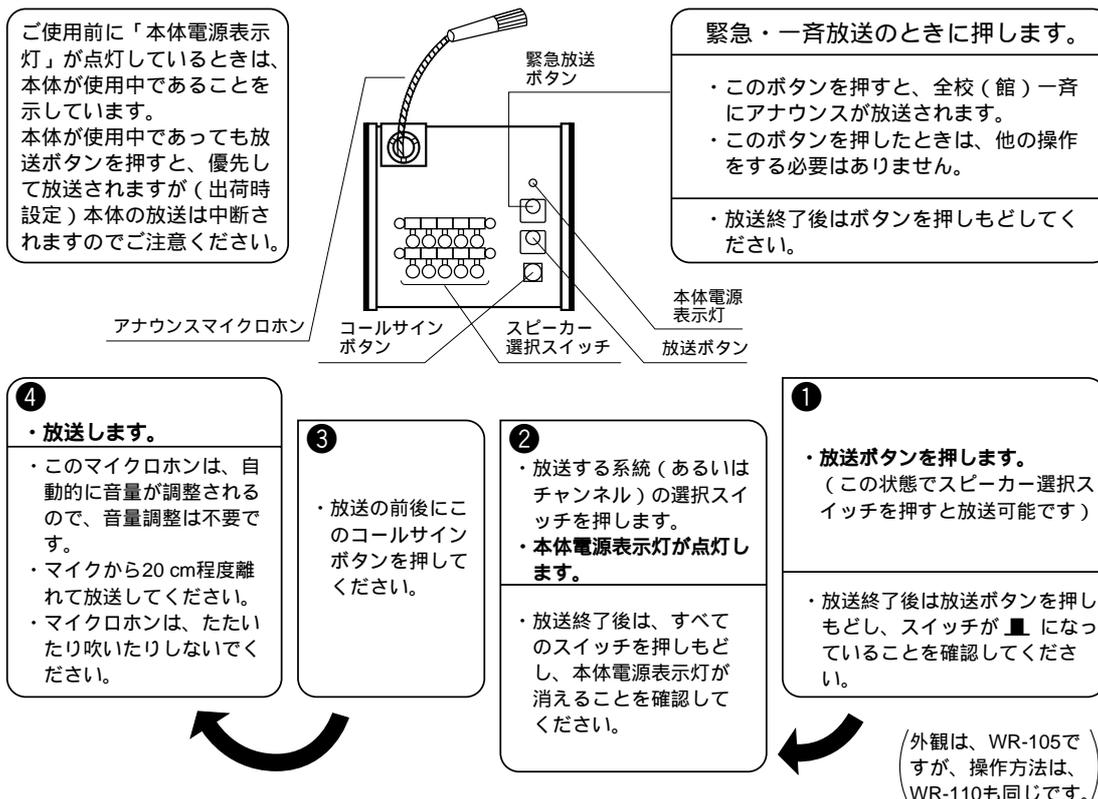
- マルチリモコンWR-300のブロック放送を利用して、音声放送と映像放送 (予備1から映像系統1へ、または予備2から映像系統2へ) をします。
- 予めブロック放送の設定が必要です。(設定は販売店にお問い合わせください。)

マルチリモコンの テンキースイッチ番号	音 声 放 送	映 像 放 送
100	全 校 放 送	予備1入力から映像系統1へ
110 ~ 119	スピーカー局番1~10(0)ブロック	予備1入力から映像系統1へ
120 ~ 129	スピーカー局番1~10(0)ブロック	予備2入力から映像系統2へ

マルチリモコンから放送するとき、複数の番号が入力されたときの優先順位は、下のようになります。

- ① AVリモコン放送 (全校)
- ② AVリモコン放送 (ブロック)
- ③ 通常マルチリモコン放送 (テンキースイッチ1~70)

リモコンマイク (WR-105、110) から放送するとき



- リモコン使用時には、AVステーションの操作モニターに文字表示します。

チャイム放送

チャイムは、プログラムコントローラ（またはタイマー）と組み合わせられ、自動的に放送されますが、次のように設定可能です（設定は販売店にお問い合わせください）。

時間の変更はプログラムコントローラ（またはタイマー）の取扱説明書をお読みください。

設定	放送状態	操作画面の表示	
		電源スイッチ入時	電源スイッチ切時
チャイムミキシング 「オン」	<ul style="list-style-type: none"> ● 放送中の音のレベルを下げチャイム音とミキシングされる。 ● 一斉放送となる。 	—	—
チャイムミキシング 「オフ」	<ul style="list-style-type: none"> ● 放送中の音はカットされる。 ● チャイム音のみ一斉放送となる。 	「R」と表示	「リモコン」と表示

ご注意

スタジオスピーカーはスタジオ連絡用なので、リモコンマイク、チャイム放送はできません。

リモコン放送のしかた

放送の優先順位

各種リモコン放送とAVステーション本体との間には、第一から第三までの優先順位をそれぞれ設定することができます。

優先順位の低い放送は、優先順位の高い放送が始まると、カットされます。

同一優先順位の場合は、後押し優先です。(後から押したスイッチ又は機器が優先する。)

優先順位の設定については販売店にお問い合わせください。

出荷時の設定は以下のとおりです。

優先	第一	第二	第三	
AVステーション				
リモコンマイク				
マルチリモコン				
チャイム				

ご注意

AVステーション本体よりも優先度の高いリモコン放送が行われている場合、リモコン放送に影響を与える操作は行えません。リモコン放送中はAVステーション本体の操作を行わないでください。

参考

AVステーション本体よりも優先度の高いリモコン放送が行われている場合に、リモコン放送に影響を与えるような操作を行ってしまった場合、下記の例のような動作となります。

例1：音声1系統でリモコン放送中に、音声1系統の放送をONにする。

放送ONの操作はキャンセルされます。

例2：音声1系統でリモコン放送中に、音声1系統の放送をONにするような内容が登録された標準パターンを実行する

パターンLEDが点灯しません。

例3：音声1系統でリモコン放送中に、音声1系統の放送をONにするような内容が登録された拡張パターンを実行する

選択した拡張パターンは緑色表示になりますが、実際の動作は行われません。

なお、AVステーション本体よりも優先度の高いリモコン放送が行われている場合でも、下記の例のようなリモコン放送に影響を与えない操作は可能です。

例1：音声1系統でリモコン放送中に、音声2系統の放送をONにする。

例2：音声1系統でリモコン放送中に、音声モニターの設定を変更する。

例3：音声1系統でリモコン放送中に、音声2系統の放送をONにするような内容が登録されたパターンを実行する(音声1系統は何も設定しないものとします)。

スタジオとの連絡

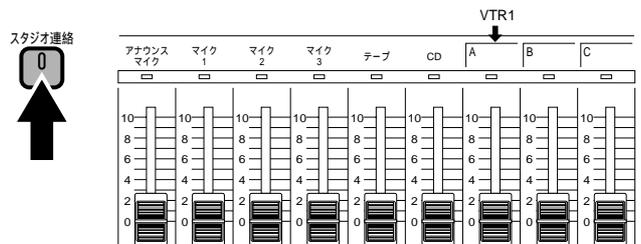
スタジオ連絡スイッチを使う

準備

- ① 音声モニターを音声ミキサーに設定しておく。
- ② マイク1~3のうち、どれかをきめて、スタジオに置き、音量を調節しておく。

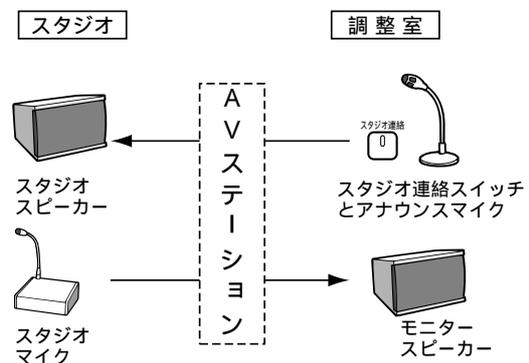
調整室からスタジオへ

- ① スタジオ連絡スイッチを押す。
- ② アナウンスマイクに向かって話す。
スタジオスピーカーに流れる。



スタジオから調整室へ

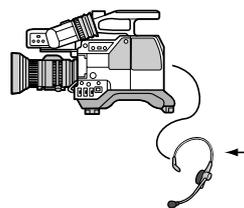
- ① 再びスタジオ連絡スイッチを押す。
- ② スタジオのマイクに向かって話す。
調整室のモニタースピーカーから話が流れる。



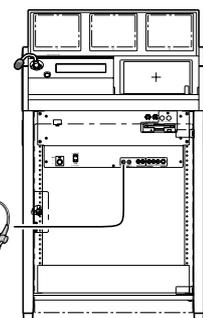
インターカム

インターカムヘッドセットを使用して、各カメラマン、AVステーション間で通話ができます。

スタジオカメラ



カメラの後面にインターカム用ジャックがあります。



予備入力パネルにインターカム用ジャックがあります。

カメラタリー

カメラ1~3を使用時に、出演者に現在、放送されているカメラのランプ(カメラの上部)を点灯させて知らせます。映像ミキサーで、2台のカメラが放送されているときは、2台とも点灯します。

ご注意

映像ミキサーの自動切り換え動作中に、ミックス/ワイプつまみの操作はしないでください(51ページをお読みください)。

仕様

電源	: AC 100V 50 / 60 Hz
消費電力	: WL-AV200A 128 W(スタンバイ時 25 W) WL-AV190 112 W(スタンバイ時 25 W)
寸法	: 幅 578 mm 高さ 990 mm 奥行 790 mm
質量	: 約 50 kg
仕上げ	: 操作部ミディアムグレー (マンセル10B5/1近似色) 筐体OAアイボリー (マンセル8.0Y7.8 / 0.8近似色)

予備入力パネル部

予備1音声(R/L)	: 入力インピーダンス 10 k Ω 不平衡 \times 1 最大入力感度 -32 dBV (ピンジャック)
VTR2音声(R/L)	: 入力インピーダンス 22 k Ω 不平衡 \times 1 入力レベル -14 dBV(ピンジャック)
VTR2映像	: 映像入力レベル 1V[p-p] / 75 Ω \times 1 (コンボジット)(ピンジャック)
VTR2(Y-C入力)	: Y信号入力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω \times 1 C信号入力レベル 0.286 V[p-p] / 75 Ω \times 1(S-ビデオコネクタ)
インカム出力	: インカムヘッドセット端子 \times 1 (複式ジャック)
ヘッドホン出力 (モニタ用)	: 複式ジャック(M-6) \times 1 8 Ω 3 mW
AC電源コンセント (非連動)	: AC100V、2A

後部端子部(入力回路(音声))

マイク1~3	: 入力インピーダンス 600 Ω 適合 平衡 \times 3 入力レベル -60 dBV (複式ジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 15 kHz \pm 3 dB S/N 50 dB以上
CD	: 入力インピーダンス 10 k Ω 不平衡(L/R) 入力レベル -14 dBV(ピンジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上
テープ	: 入力インピーダンス 10 k Ω 不平衡 (L/R) 入力レベル -14 dBV(ピンジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上
VTR1~3	: 入力インピーダンス 10 k Ω 不平衡 (L/R) \times 3 入力レベル -14 dBV(ピンジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上 (VTR2は前面・後面切り換え可能)

AUX2、AUX3 / MD	: 入力インピーダンス 10 k Ω 不平衡 (L/R) \times 2 最大入力感度 -32 dBV (ピンジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上 (AUX2はステレオ / モノラル切換付)
ワイヤレス	: 入力インピーダンス 22 k Ω 不平衡 入力レベル -22 dBV(ピンジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上
レピータ	: 入力インピーダンス 600 Ω 平衡 入力レベル 0 dBV (複式ジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上
マルチリモコン	: 入力インピーダンス 600 Ω 平衡 入力レベル 0 dBV (複式ジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上
リモコンマイク	: 入力インピーダンス 20 k Ω 不平衡 入力レベル 0 dBV (単式ジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上
チャイム	: 入力インピーダンス 22 k Ω 不平衡 入力レベル 0 dBV(ピンジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上
V-AUX1 ~ 4	: 入力インピーダンス 10 k Ω 不平衡 (L/R) \times 4 最大入力感度 -32 dBV (ピンジャック) 周波数特性 50 Hz ~ 20 kHz \pm 3 dB S/N 60 dB以上

後部端子部(入力回路(映像))

テレビカメラ1~4	: 入力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω \times 4 (BNCコネクター)
OHC	: 入力 1 V[p-p] / 75 Ω (BNCコネクター)
VTR1~3	: 入力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω \times 3 (BNCコネクター) (ただしVTR2は前面・後面切換可能)
LD / DVD	: 入力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω (BNCコネクター)
V-AUX1 ~ 4	: 入力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω \times 4 (BNCコネクター)

: 出荷時設定済み

後部端子部(Y-C分離入力回路(映像))	
VTR1, VTR2	: Y信号入力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω × 2 C信号入力レベル 0.286 V[p-p] / 75 Ω(S-コネクター) × 2
カメラ1	: Y信号入力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω C信号入力レベル 0.286 V[p-p] / 75 Ω(S-コネクター)

後部端子部(出力回路(音声))	
音声放送出力1~3	: 負荷インピーダンス ハイインピーダンス不平衡 × 3 出力レベル 0 dBV (単式ジャック) S / N 60 dB
ライン出力1~3	: 負荷インピーダンス ハイインピーダンス不平衡 × 3 出力レベル -10 dBV (単式ジャック) S / N 60 dB
録音出力	: 負荷インピーダンス ハイインピーダンス(L / R) 出力レベル -10 dBV (ピンジャック)
モニター出力	: 負荷インピーダンス 8 Ω(L / R) 出力レベル 1 W (ターミナル)
スタジオスピーカー	: 負荷インピーダンス 8 Ω 出力レベル 1 W(単式プラグ)
スピーカー出力	: 同数10(15ピンコネクター)
マスターモニター出力1, 2	: 負荷インピーダンス ハイインピーダンス(L / R) × 2 出力レベル 0 dBV(ピンジャック)
VTR1, VTR3出力	: 負荷インピーダンス ハイインピーダンス(L / R) × 2 出力レベル -8 dBV

後部端子部(出力回路(映像))	
ライン1~3	: 出力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω × 3 (BNCコネクター)
マスターモニター出力1, 2	: 出力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω × 2 (BNCコネクター)
VTR1, 3	: 出力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω × 2 (BNCコネクター)
BB出力	: ブラックバースト / 75 Ω (BNCコネクター)

後部端子部(Y-C分離出力回路(映像))	
VTR3	: Y信号出力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω C信号出力レベル 0.286 V[p-p] / 75 Ω(S-コネクター)
VTR3モニター	: Y信号出力レベル 1 V[p-p] / 75 Ω C信号出力レベル 0.286 V[p-p] / 75 Ω(S-コネクター)

後部端子部(ACコンセント部)	
AC電源コンセント(連動)	: AC 100 V、最大1.5 A × 14 (合計最大21 A)
	(非連動): AC 100 V、最大3 A × 2 (合計最大6 A)

操作パターン登録内容記述シート

操作パターンや内容を変えたときには、このページをコピーして書き込み、本文に貼り付けてご使用ください。

1			ページ
2			ページ
3			ページ
4			ページ
5			ページ
6			ページ
7			ページ

--	--	--

1 →

2 →

3 →

4 →

5 →

6 →

拡張パターン登録内容記述シート

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

拡張パターン登録内容記述シート

21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

付録 ワイプの動作イメージ

各ワイプパターンの動作イメージ

入力A側の映像



入力B側の映像



ワイプパターン	動作イメージ (A映像からB映像への切り換え)						
基本ワイプパターン							
						四角の位置は、ジョイスティックで移動できます。	
スペシャルワイプパターン							
		1					背景色との組合せはできません。
		1					背景色との組合せはできません。
		1					

1...ミックス/ワイプつまみは使えません。

付録 ワイプの動作イメージ

ワイプパターン	動作イメージ (A映像からB映像への切り換え)					
スペシャルワイプパターン						
		1				B映像が横回転(↻)しながら、大きくなります。
		1				B映像が縦回転(↻)しながら、大きくなります。
		1				<ul style="list-style-type: none"> ・背景色との組合せはできません。 ・B映像からA映像への切り換えはできません。
						<ul style="list-style-type: none"> ・縮小画面の位置は、ジョイスティックで上下に移動できます。 ・ジョイスティックが端の方にあると映像が見えませんがご注意ください。
		2				<ul style="list-style-type: none"> ・縮小画面の位置は、ジョイスティックで上下左右に移動できます。 ・ジョイスティックが端の方にあると映像が見えませんがご注意ください。

1...ミックス/ワイプつまみは使えません。

2...ミックス/ワイプつまみを動かすと、A映像の上に縮小画面がオーバーラップして出力されます。

ワイプ方向の動作イメージ

入力A側の映像

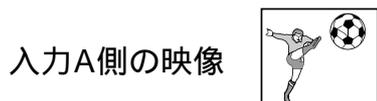


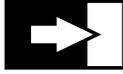
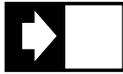
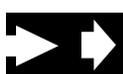
入力B側の映像



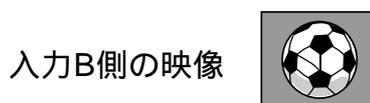
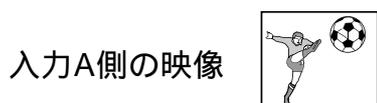
ワイプ方向	動作イメージ (A映像からB映像への切り換え)				
 (通常)					

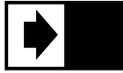
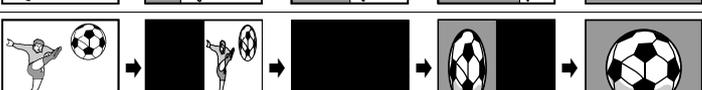
ワイプモードの動作イメージ



ワイプモード	動作イメージ (A映像からB映像への切り換え)
 (通常)	
	
	
	
	

ワイプ動作の動作イメージ



ワイプ動作	動作イメージ (ワイプモードを  にした場合)
 (通常)	
	
	 <p>黒の部分は背景色で設定した色になります。</p>
	

アフターサービスについて

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は・・・
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。
よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間
ただし、放熱ファンは消耗品ですので、保証期間内でも「有料」とさせていただきます。

修理を依頼される時

お買い上げの販売店へご連絡ください。

保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理させていただきます。

保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる商品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

ただし、インテリジェントAVステーションの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後7年です。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

お買い上げ年月日	年	月	日	品番	WL-AV200A , WL-AV190
販売店名	☎ () -				

松下電器産業株式会社

松下通信工業株式会社 AVシステム事業部

〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎(045)932-1231(大代表)

NM0500-2090

A8QA5494CN